

**大阪府子どもの生活に関する実態調査
クロス集計結果について
(中間とりまとめ(30市町村分))**

H29.1.18 現在

目次

調査配布・回収率(数)について	P 3
クロス集計で分かったこと(総論)	P 3
主なクロス集計の結果	P 6~
1. 基本情報	
①経済面	P 6
②家庭面(制度等)	P 12
2. 雇用	P 15
3. 健康	P 16
4. 家庭生活、学習	P 20
5. 対人関係	P 30
参考	P 32

調査配布・回収率(数)

調査票の回収状況等については次のとおり。

		回収率(%)	回収数	配布数
大阪府 30 市町村	小学5年生	34.2	1,369	4,000
	小学5年生の保護者	34.3	1,373	4,000
	中学2年生	30.3	1,213	4,000
	中学2年生の保護者	30.5	1,218	4,000

(平成 28 年 10 月 11 日単純集計結果公表時)

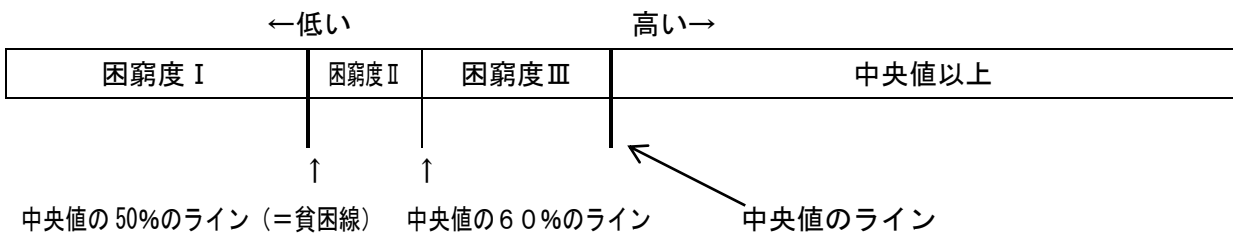
クロス集計で分かったこと(総論)

子どもの生活に関する実態調査(子ども・保護者調査)について、平成28年10月に単純集計結果を公表。

その後、保護者からの回答における世帯所得から等価可処分所得を試算し、困窮の程度を4つの層に分類。

中央値以上	等価可処分所得中央値(274万円)以上の層	50.1%
困窮度Ⅲ	等価可処分所得中央値未満から60%以上の層	30.5%
困窮度Ⅱ	等価可処分所得中央値の50%以上60%未満の層	7.1%
困窮度Ⅰ	等価可処分所得中央値の50%未満の層(=貧困線未満)	12.3%

(参考)困窮度(4つの層)



* 厚生労働省が実施する国民生活基礎調査(以下、「国調査」)における相対的貧困率は、一定基準(貧困線)を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。

そこでの貧困線とは、等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)を世帯人員の平方根で割って調整した所得の中央値の半分の額をいう。

算出方法は、OECD(経済協力開発機構)の作成基準に基づく。

* 平成25年度の国調査(所得状況は24年中のもの)における相対的貧困率は16.1%

国調査では、所得額等について回答者に詳細な記述を求めて貧困率を算出しているが、府実施の「子どもの生活に関する実態調査(以下、「府調査」)における世帯所得額については、回答者の負担感や回収率への影響を考慮し、27年中の所得額等について50万~100万円といった数値の幅を持たせた選択肢で把握することとした。

* そのため、府調査において国調査による貧困率と同様の算出方法を用いることはできないために、国の貧困線の算出方法の「等価可処分所得」に、府調査での幅のある所得の選択肢のそれぞれ上限値と下限値の平均値を当てはめた。

(※例) 世帯所得が「500～550万円」で世帯人員5人の場合、世帯所得を525万円として
等価可処分所得を算出(234.8万円 \div √5)

- * 府調査では、この等価可処分所得を基に「困窮度」の区分を行った。(相対的貧困率=困窮度Ⅰ)
- * 国調査における相対的貧困率と府調査における相対的貧困率においては、算出方法に違いがあることに加えて、所得データを把握した時期の違い、つまり経済状況の違いにも起因するものと考えられる。

子ども・保護者からの回答内容を当該困窮度ごとにクロス集計を実施した結果、雇用・経済面での厳しい状況、健康面での厳しい状況、家庭での生活・学習面での厳しい状況、孤立(支援が届いていない)している状況といった課題が見えてきた。

<雇用・経済面での厳しい状況>

- ・ 困窮度の高い層ほど、無業や非正規状態の割合が高く、困窮度Ⅰ(等価可処分所得の中央値の50%未満)では3分の1を占めている。
- ・ 困窮度Ⅰでは、生計者が母親である割合が半数を占め、10代の親が厳しい。
- ・ 困窮度と住宅の関係では、公営住宅やUR入居者の半数ほどが困窮度Ⅰに含まれている状況である。

<健康面での厳しい状況>

- ・ 困窮度の高い層の方が、子どもが朝食やお風呂の頻度など基本的な生活が満たされておらず、遅刻が多くなる傾向があり、よく頭が痛くなったり、不安な気持ち、やる気が起こらないなどの状況がある。
- ・ 保護者の方も、心身の状況は明らかに困窮度の高い方、経済的な理由でできない項目の多い方が心身に支障を生じており、定期的な健康診断を「受けていない」と回答したのは全体では約35%だが、困窮度の高い層の方が多く傾向であり、困窮度Ⅰ・Ⅱではそれぞれ約半数を占める状況である。

<家庭での生活・学習面での厳しい状況>

- ・ 子どもの勉強や生活に関する項目では、困窮度の高い層ほど、通学状況や学習の意欲、将来の進学希望が低く、勉強時間や読書時間が少なく、学習理解度が低い。
また、保護者との会話や文化活動など関わりが低い。
- ・ 子どもは経済的な理由で進学をあきらめる傾向にある。

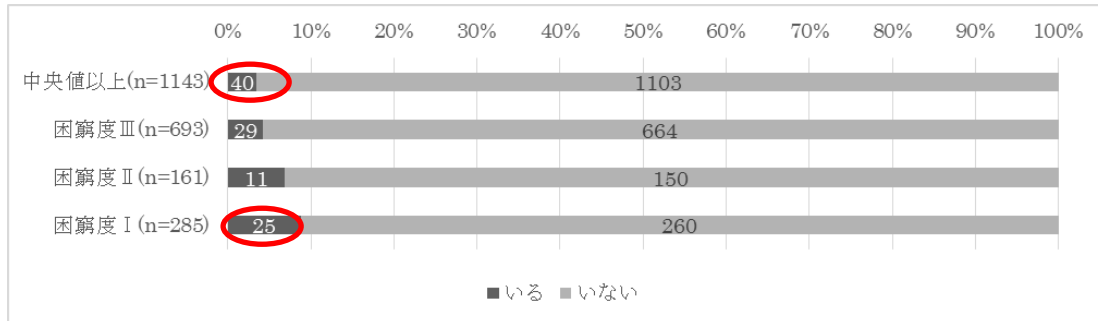
<孤立(支援が届いていない)している状況>

- ・ 公的機関や役所の相談員に相談する保護者の割合は、困窮度の程度に関わらず少ない状況にあり、困窮度ごとに配偶者・パートナー、自分の親などの身内に相談する割合を見ると、困窮度の高い層の方が少なくなっている。そうしたことから、困窮度の高い層の孤立状況が見える。
- ・ 困窮度Ⅰにおいて、ほぼすべての世帯が受けているのは児童手当だけである。

【補足説明】次頁以降のクロス集計結果について

- ・次頁以降において困窮度ごとに各項目における割合を示しているが、それぞれの母数を100%としている。

(例) 図 5 介護・介助の必要な人 (保護者票問 3-1-2)



- ・上記の「**○**」について、それぞれの層に占める割合は困窮度Ⅰの方が大きいですが、人数は中央値以上は40人、困窮度Ⅰでは25人であることに留意。

主なクロス集計の結果

1. 基本情報

①経済面

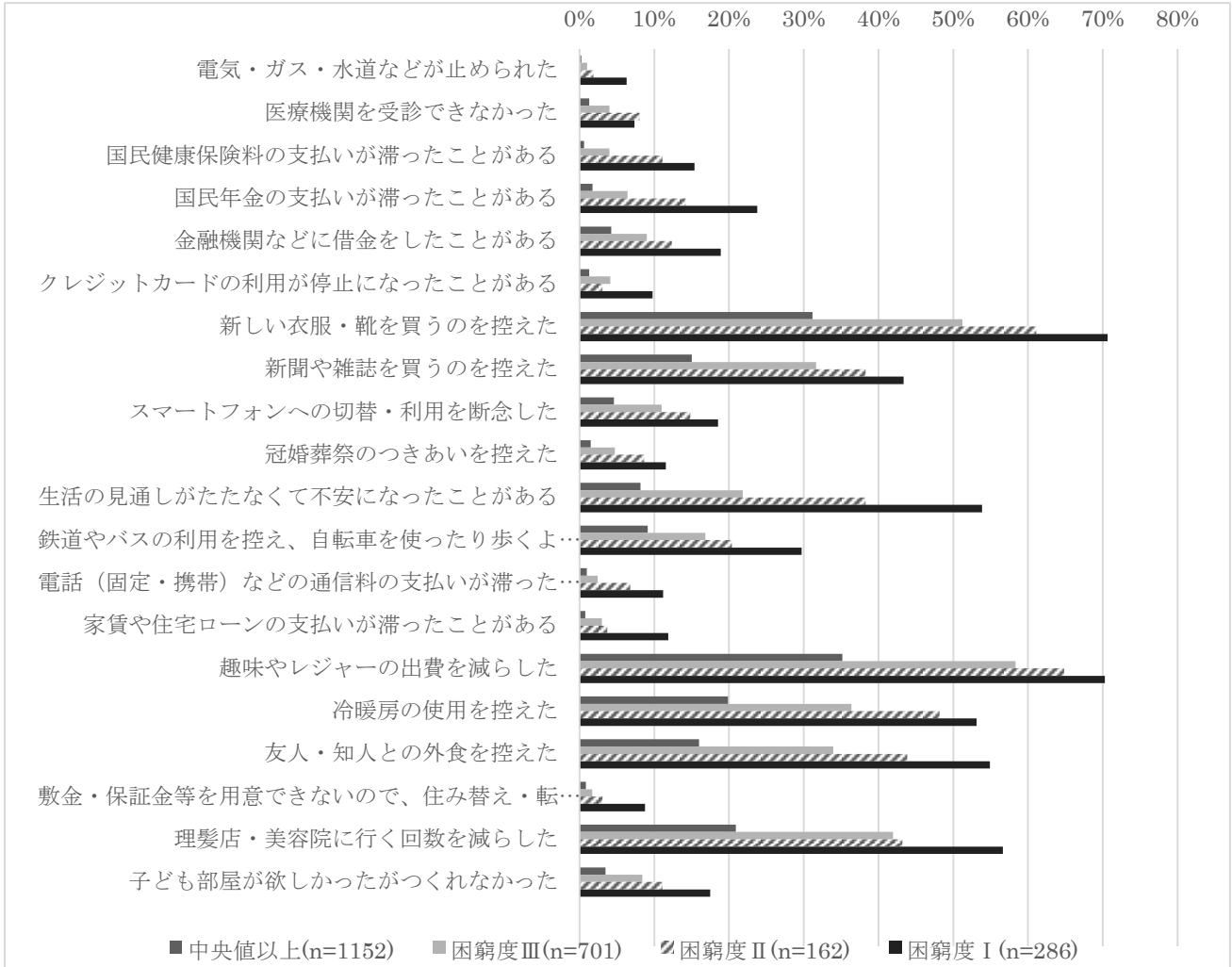


図 1 世帯において経済的にできなかったこと（保護者票問 7）

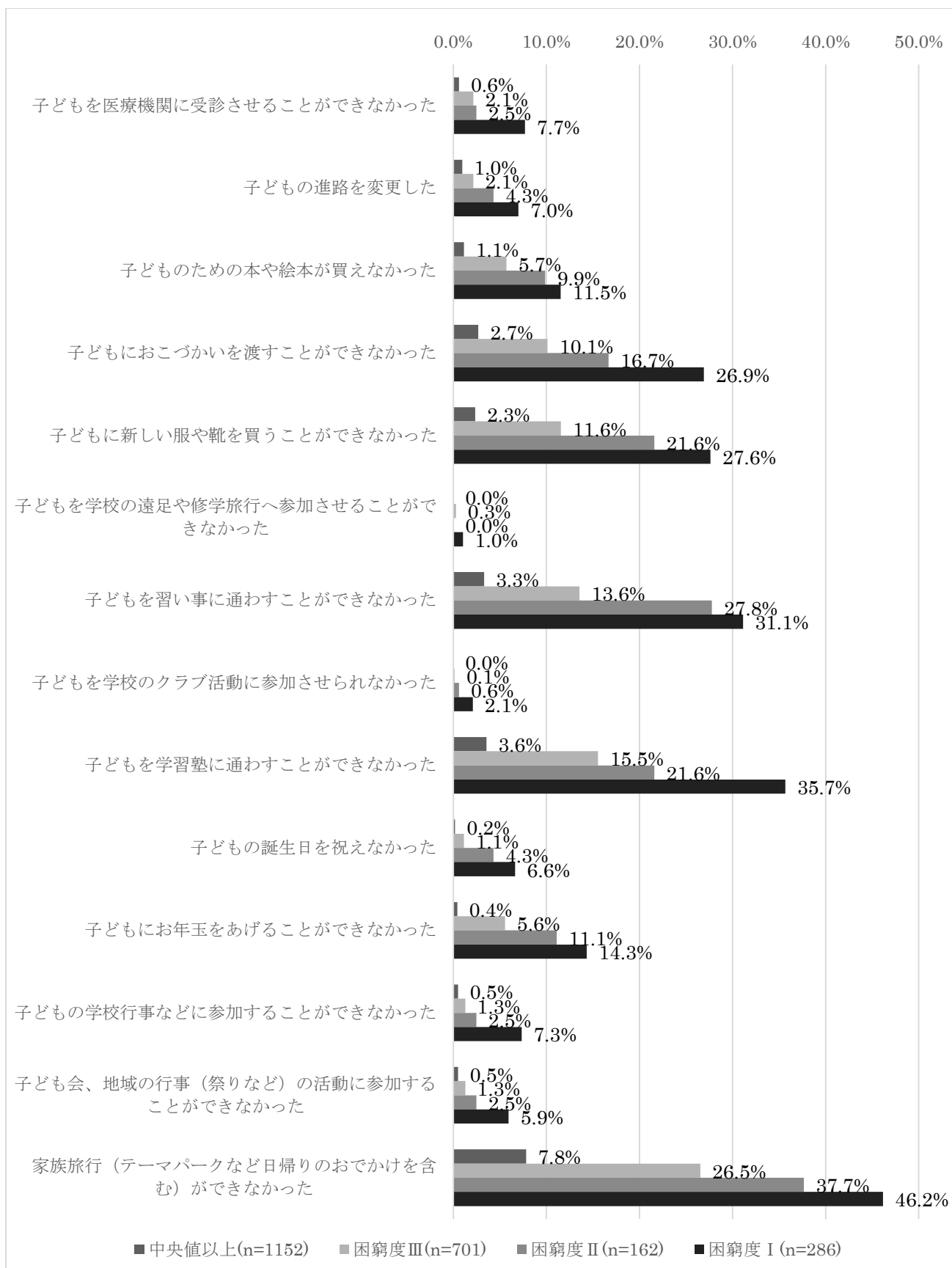


図 2 子どもに関して経済的にできなかったこと（保護者票問 13）

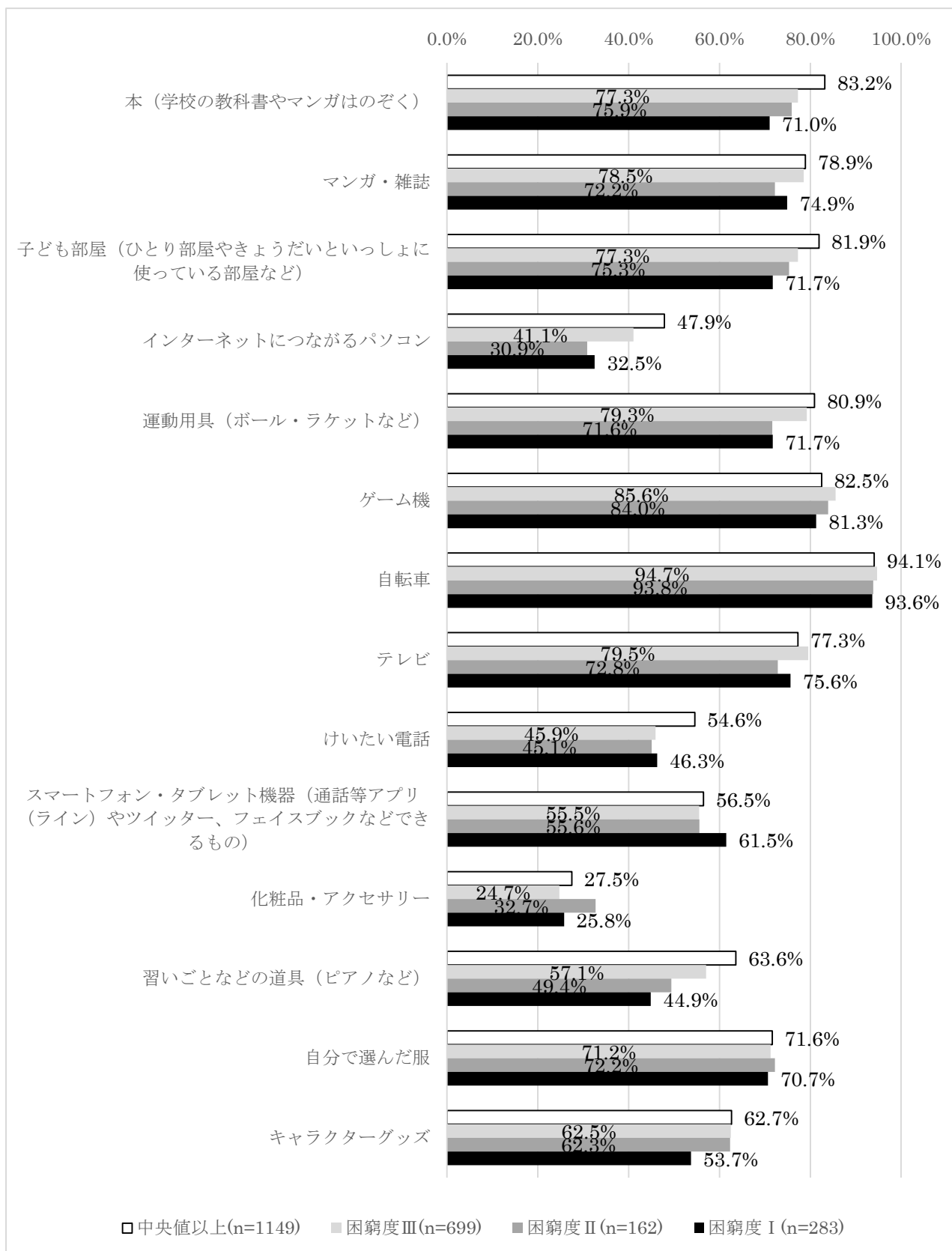


図 3 子どもの持ち物 (子ども票問 22)

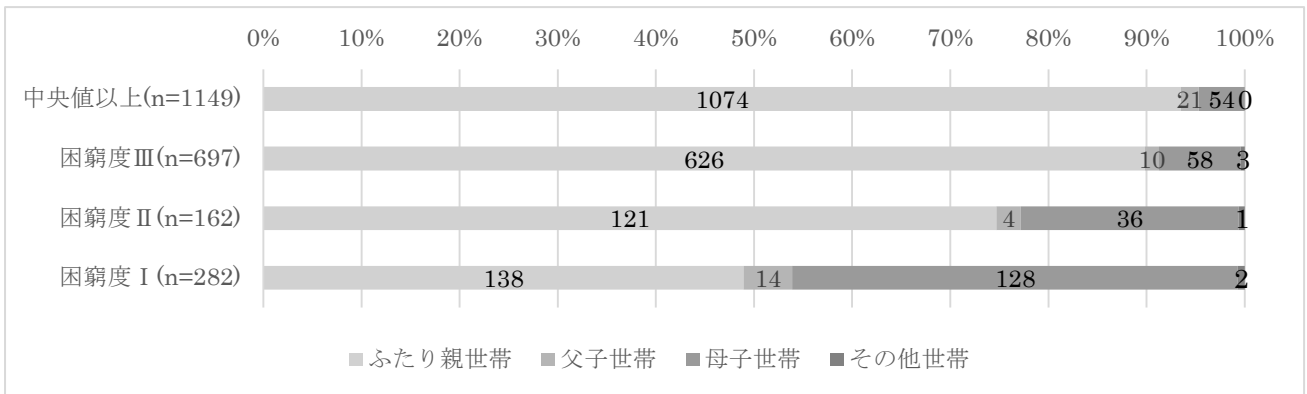


図 4.世帯構成 (保護者票問 3-2 より)

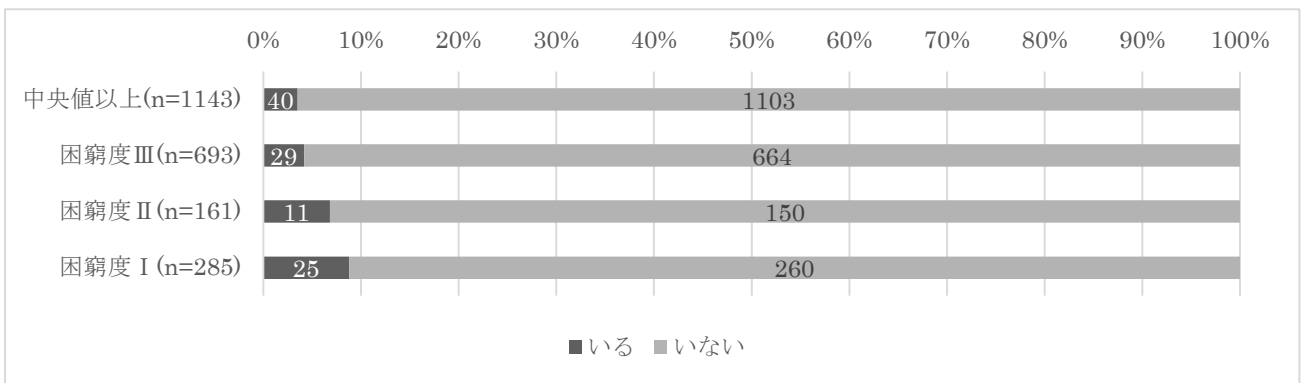


図 5 介護・介助の必要な人 (保護者票問 3-1-2)

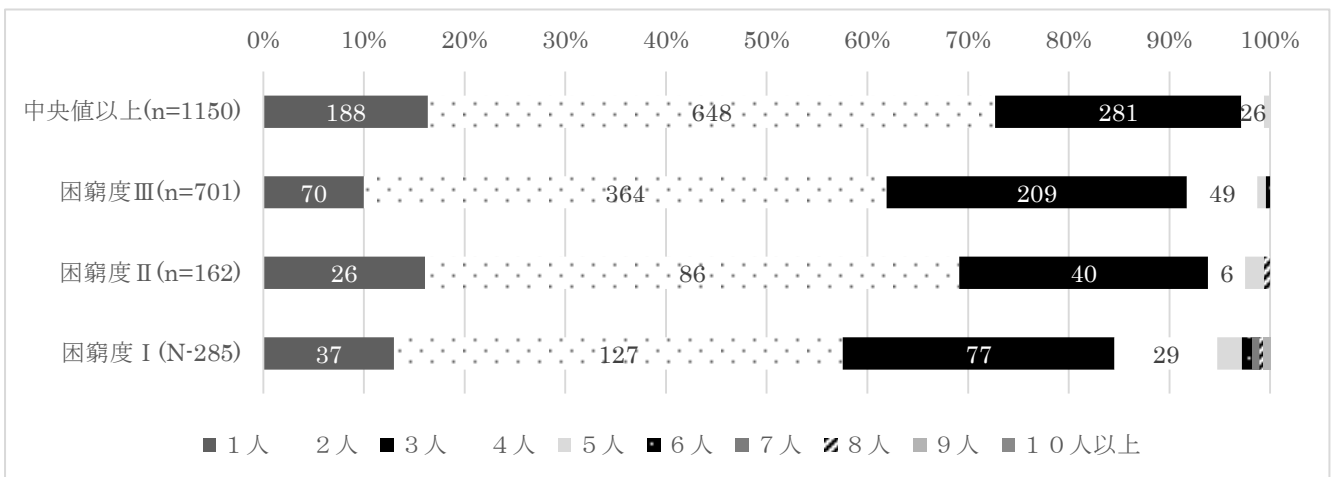


図 6 子どもの人数 (保護者票問 3-1-3)

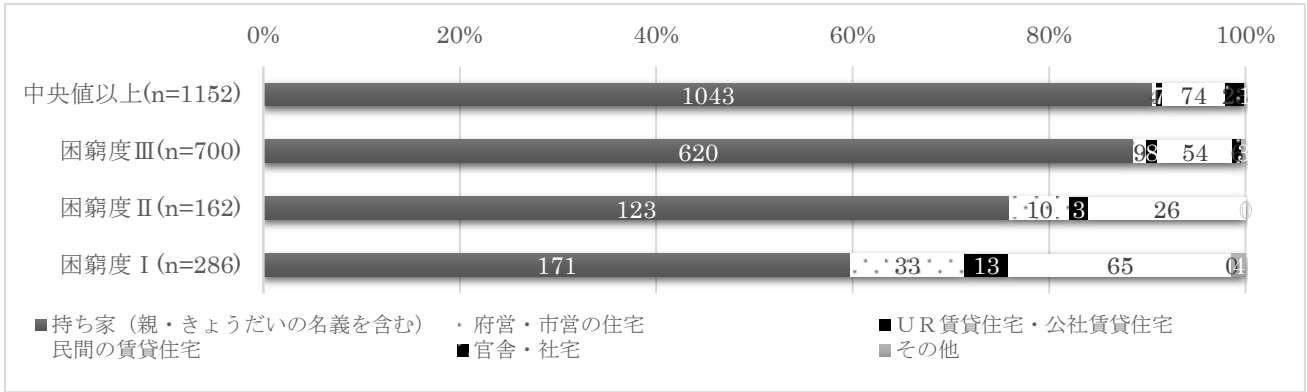


図7 住居 (保護者票問4)

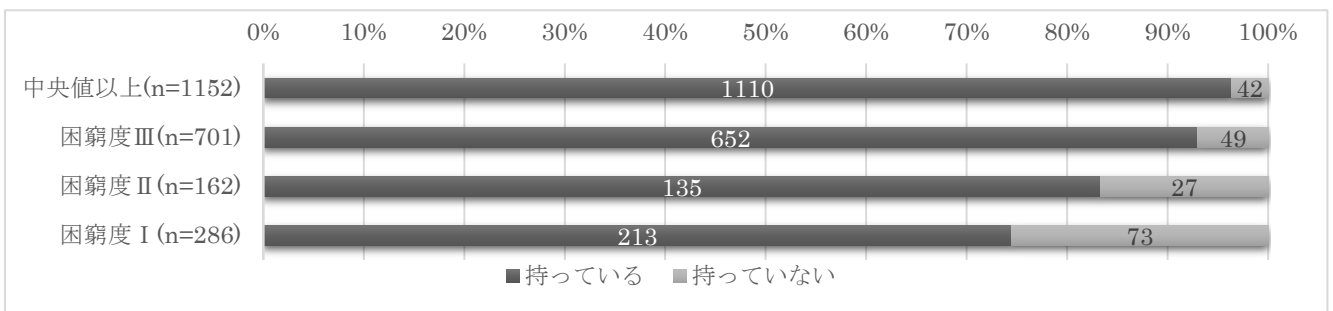


図8 車所持 (保護者票問5)

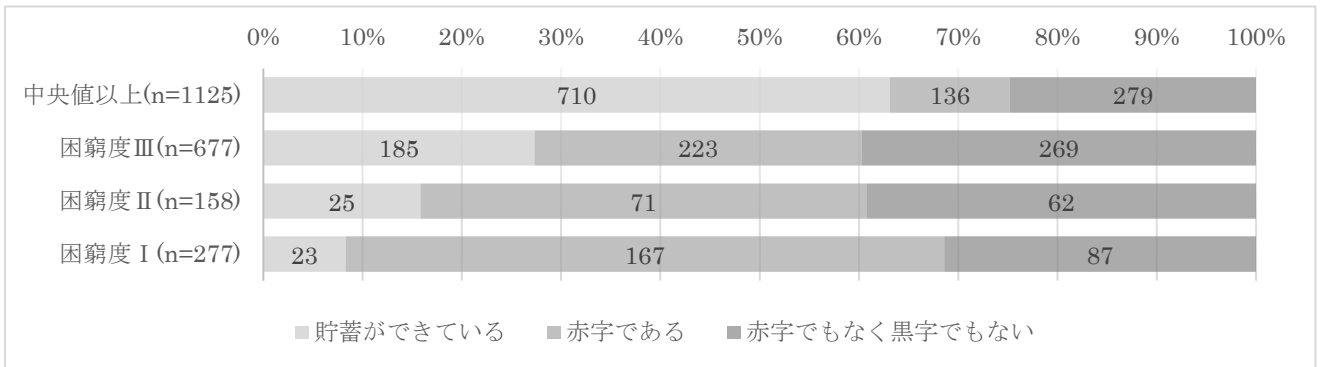


図9 貯蓄をしているかどうか (保護者票問6-1)

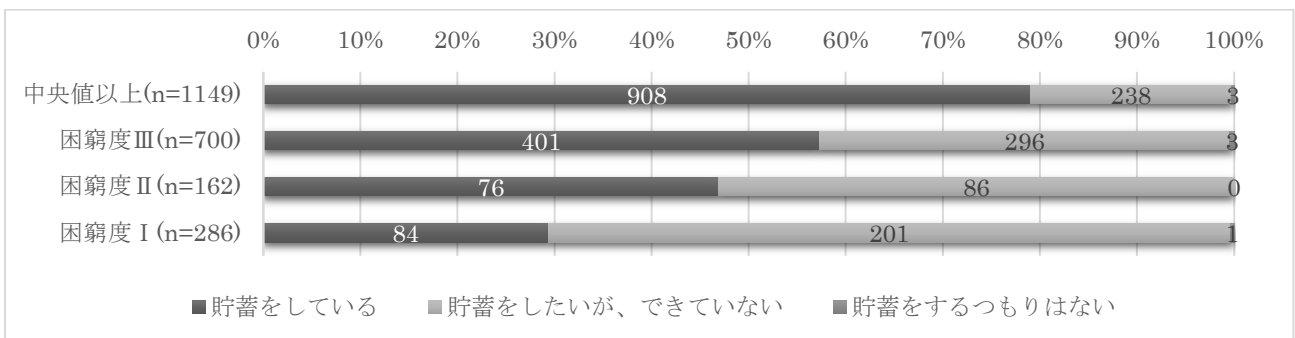


図10 子どものための貯蓄をしているかどうか (保護者票問6-3)

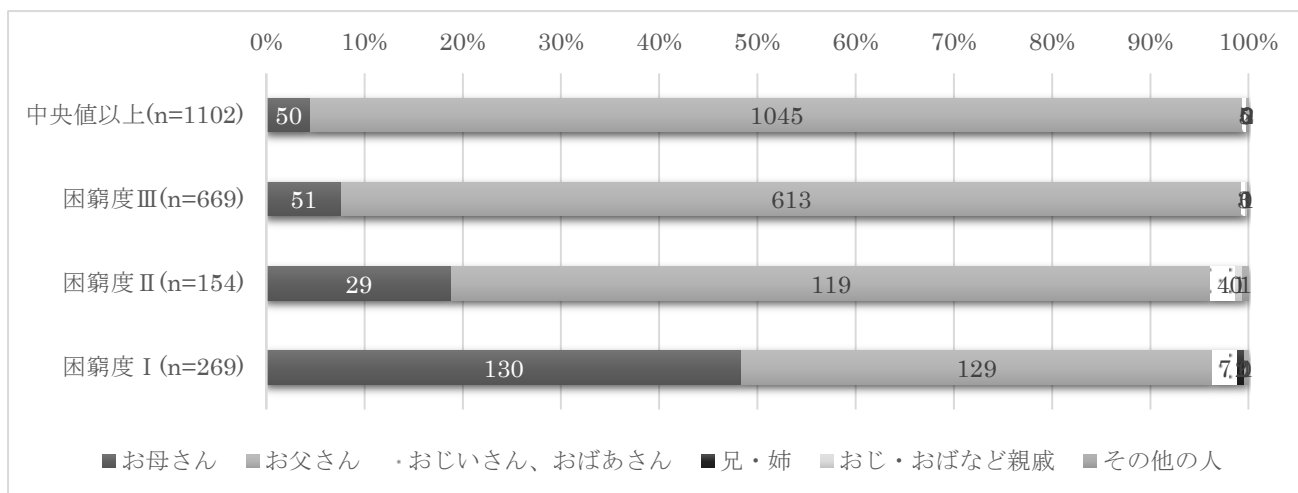


図 11 生計の支えとなる人 (保護者票問 27-2)

②家庭面（制度等）

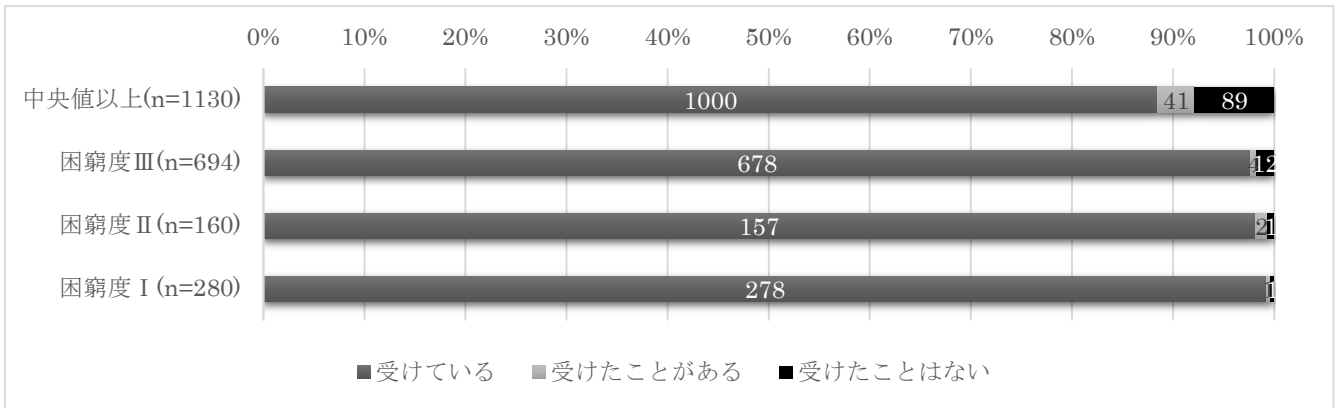


図 12 児童手当（保護者票問 27）

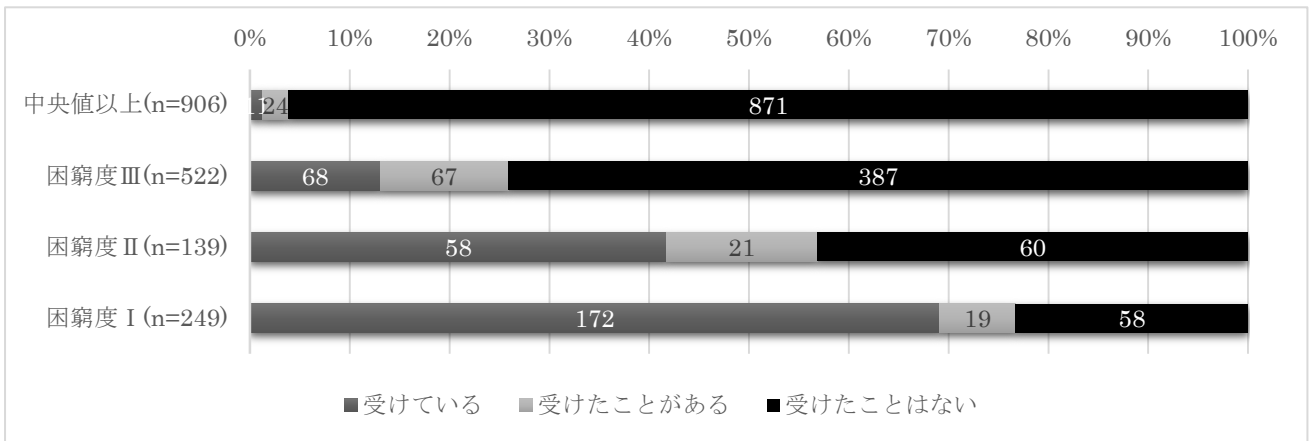


図 13 就学援助費（保護者票問 27）

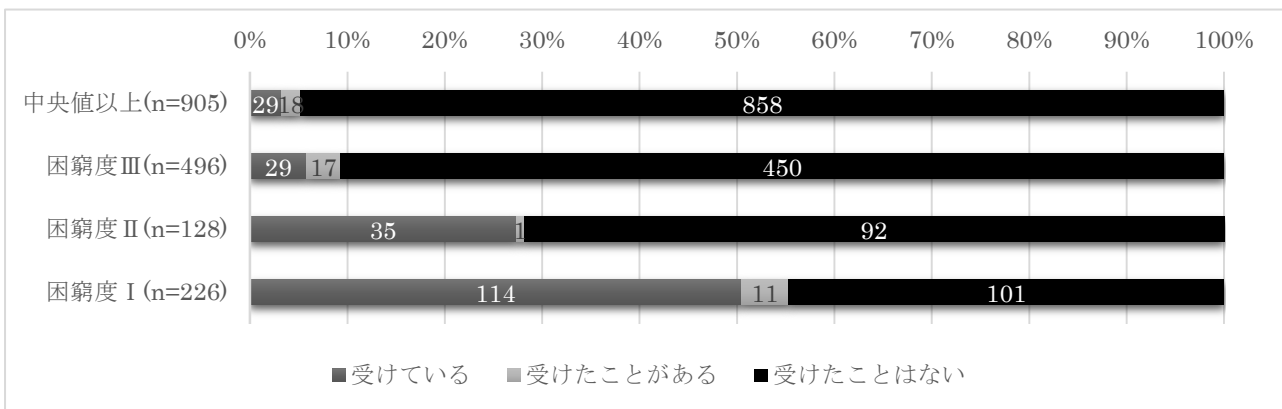


図 14 児童扶養手当（保護者票問 27）

※このうち母子世帯、父子世帯を母数とする割合について P 3 3 参照

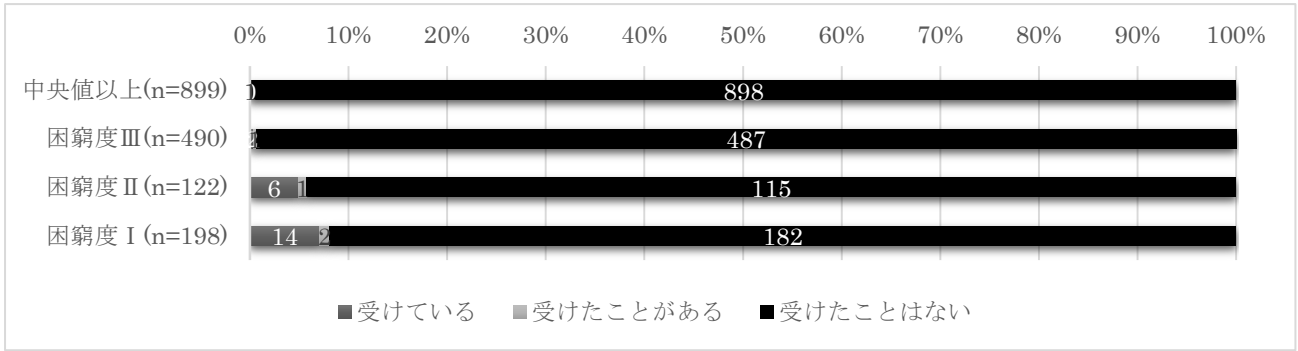


図 15 生活保護（保護者票問 27）

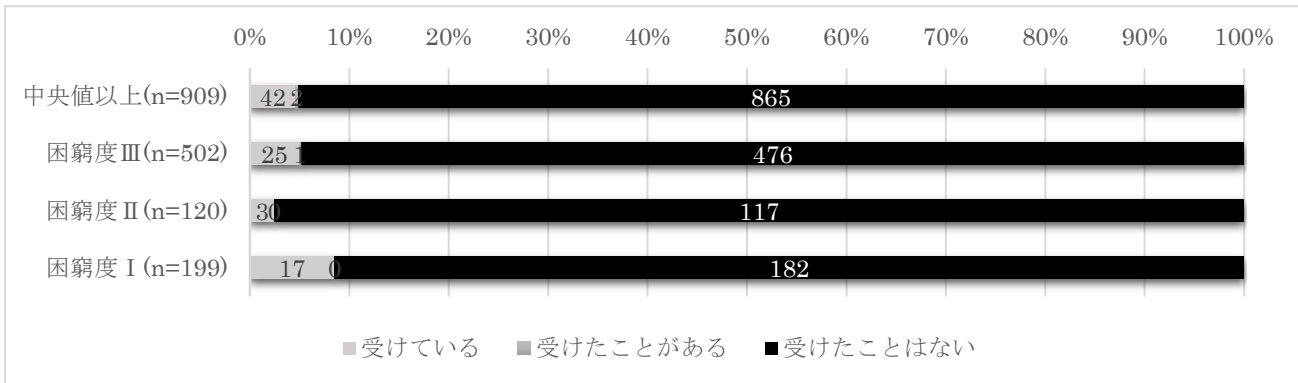


図 16 公的年金（老齢年金）（保護者票問 27）

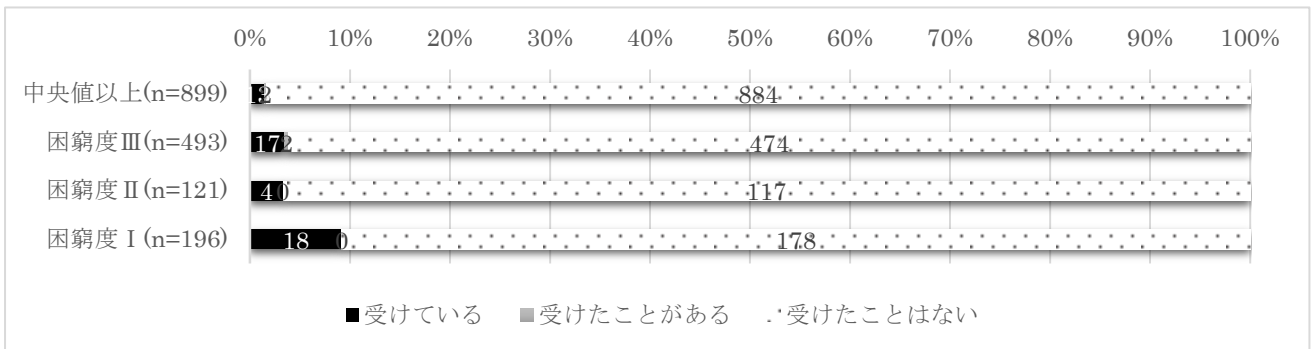


図 17 公的年金（遺族年金、障がい年金）（保護者票問 27）

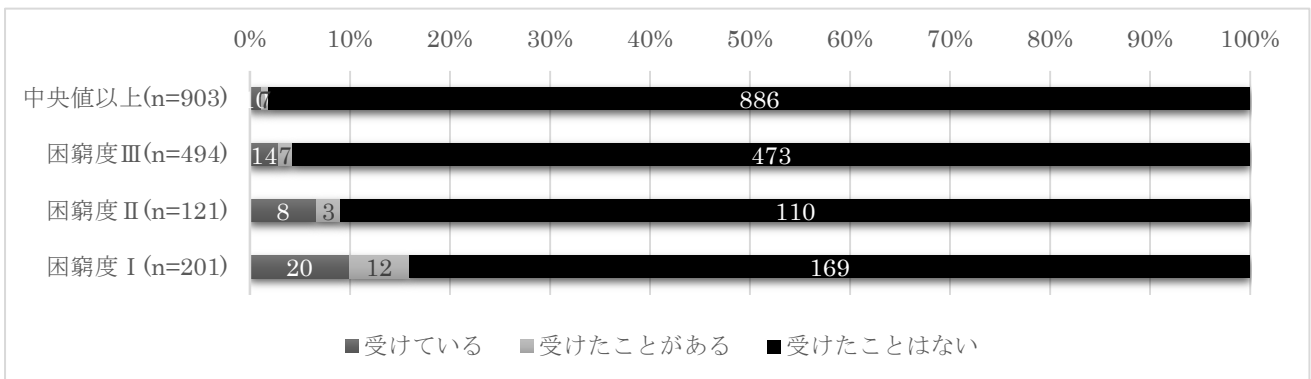


図 18 養育費（保護者票問 27） ※このうち母子世帯、父子世帯を母数とする割合についてP 3 3 参照

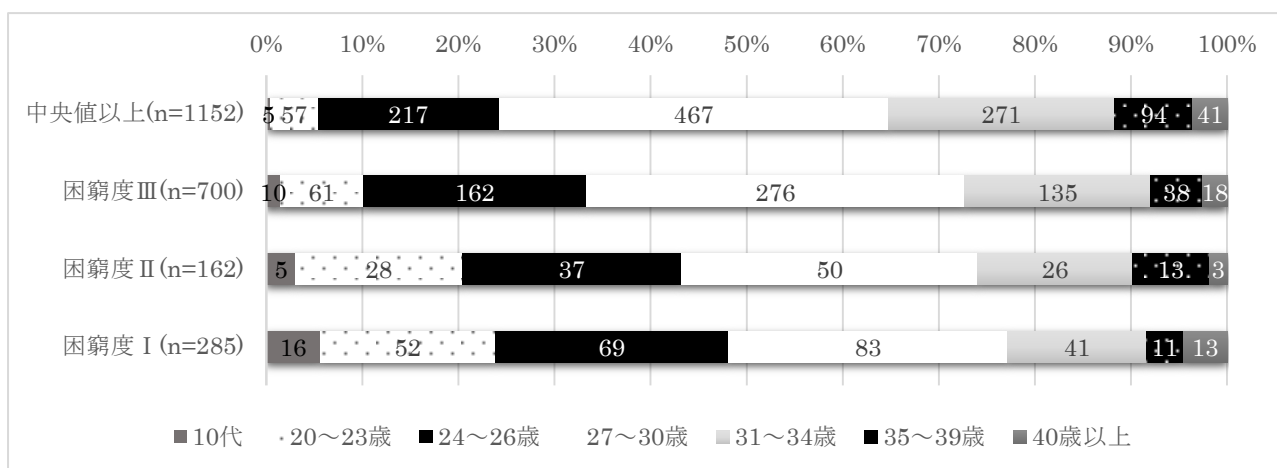


図 19 はじめて親になった年齢（保護者票問 19 ※全回答者を母数としています）

2. 雇用

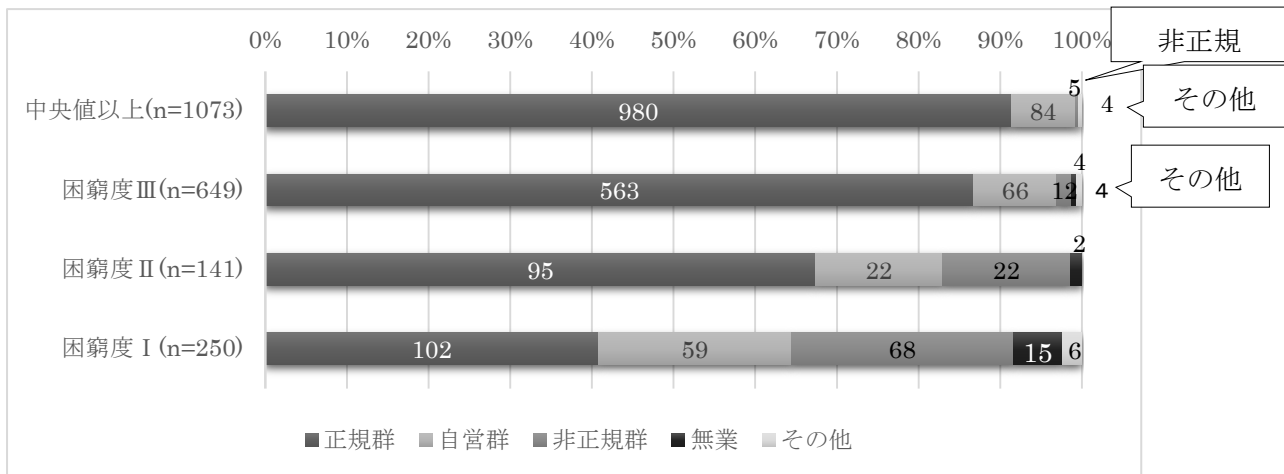


図 20 就労形態（保護者票問 9 より）

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問 9 選択肢 1）、
 上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問 9 選択肢 4）、
 上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問 9 選択肢 2、3）、
 上記以外で、誰も働いていなければ（問 9 選択肢 6、7）無業。
 上記以外がその他 となる。

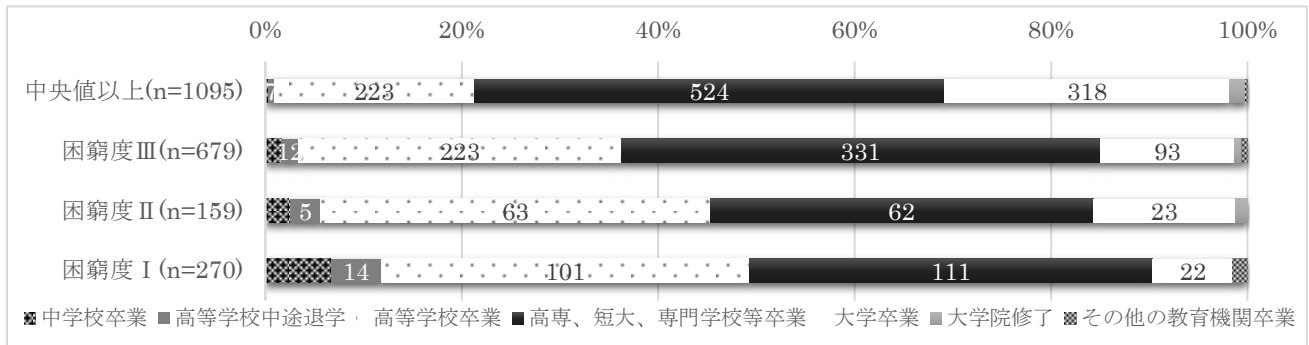


図 21 母親の学歴（保護者票問 8）

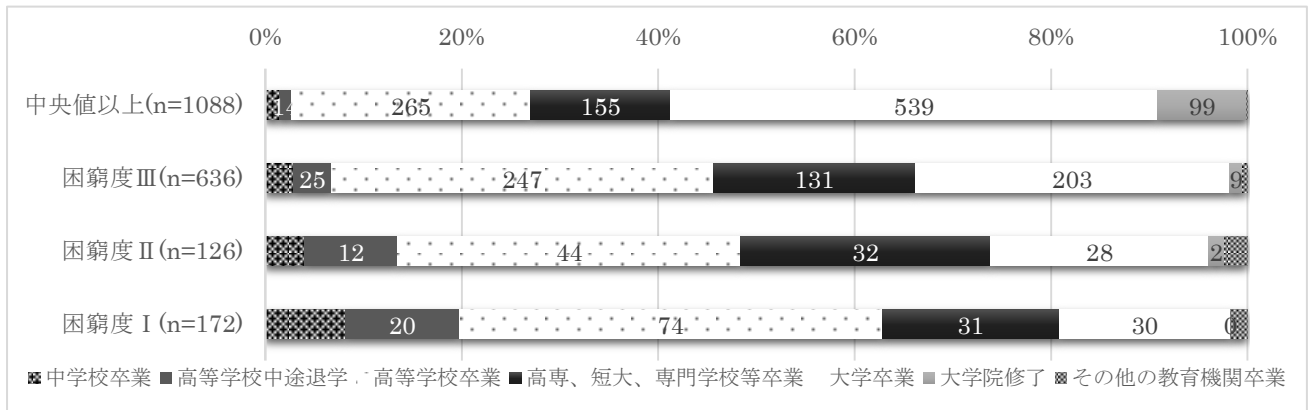


図 22 父親の学歴（保護者票問 8）

3. 健康

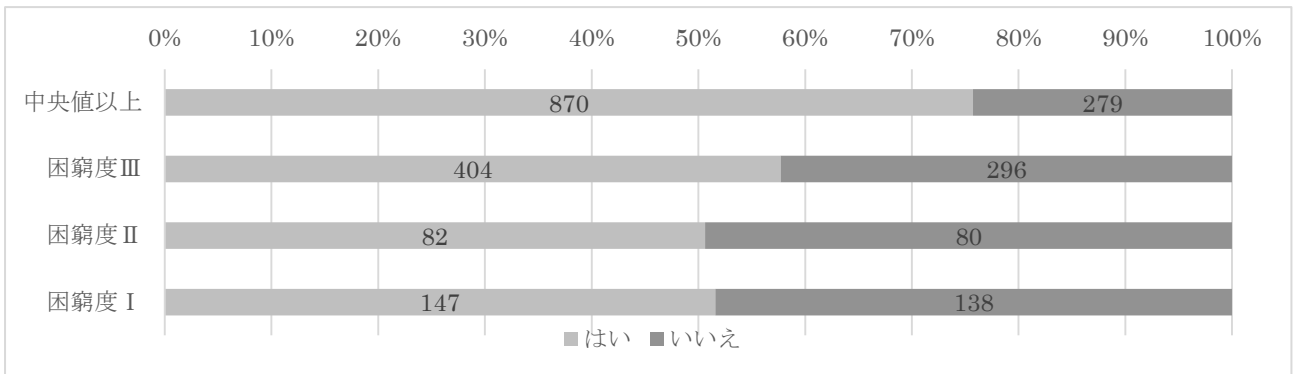


図 23 保護者の健康診断受診状況（保護者票問 25）

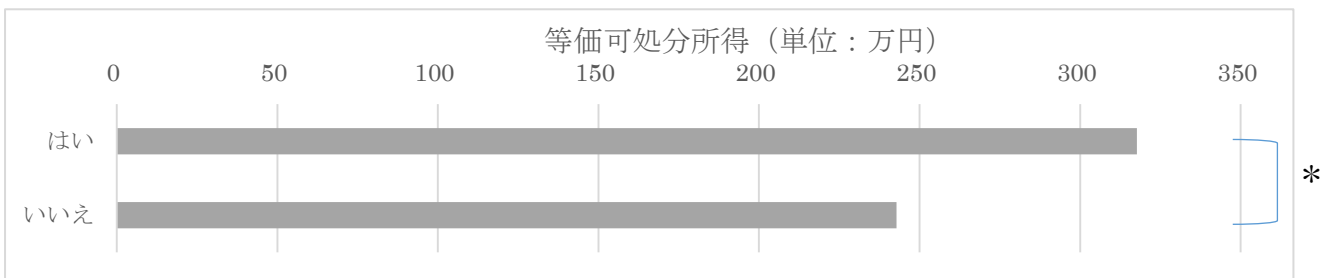


図 24 等価可処分所得と健康診断受診状況との関連

定期的に健康診断を受けている群の方が、等価可処分所得が有意に高い。

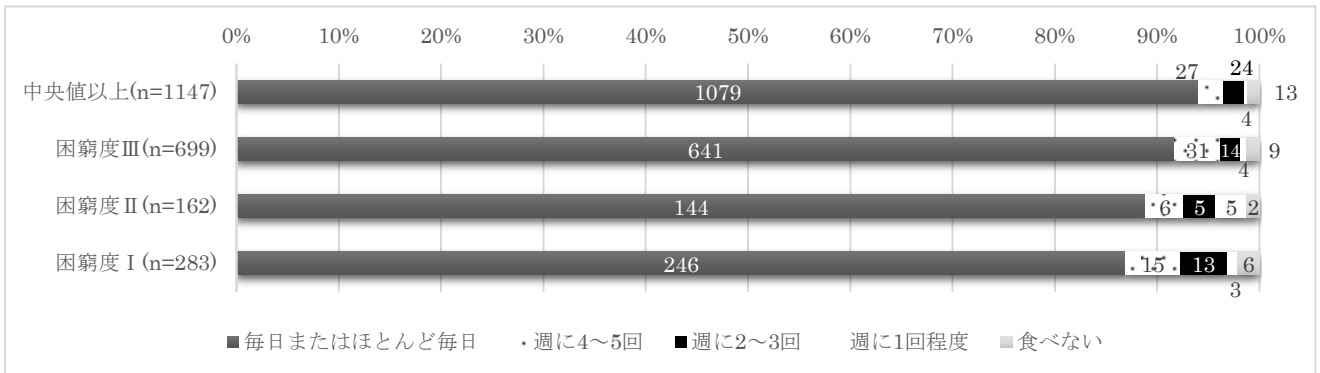


図 25 朝食の頻度（子ども票問 5）

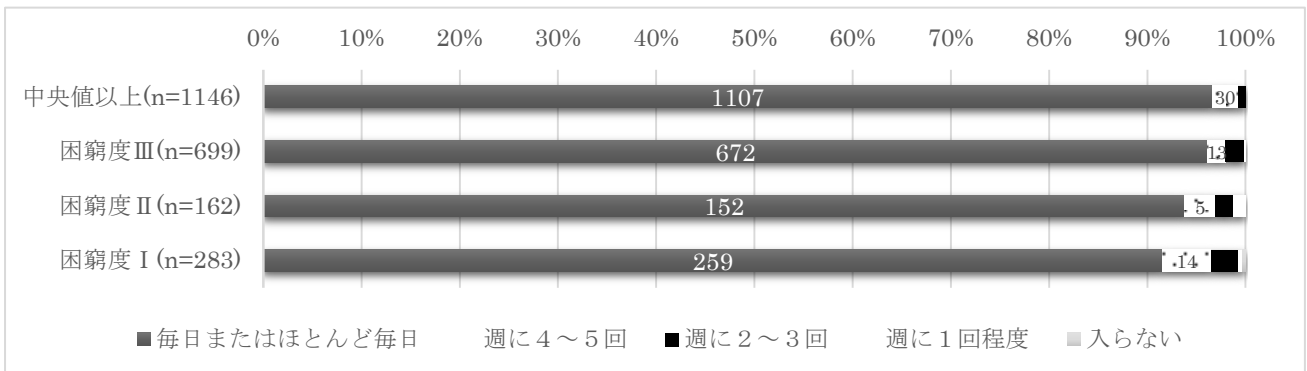


図 26 入浴頻度（子ども票問 8）

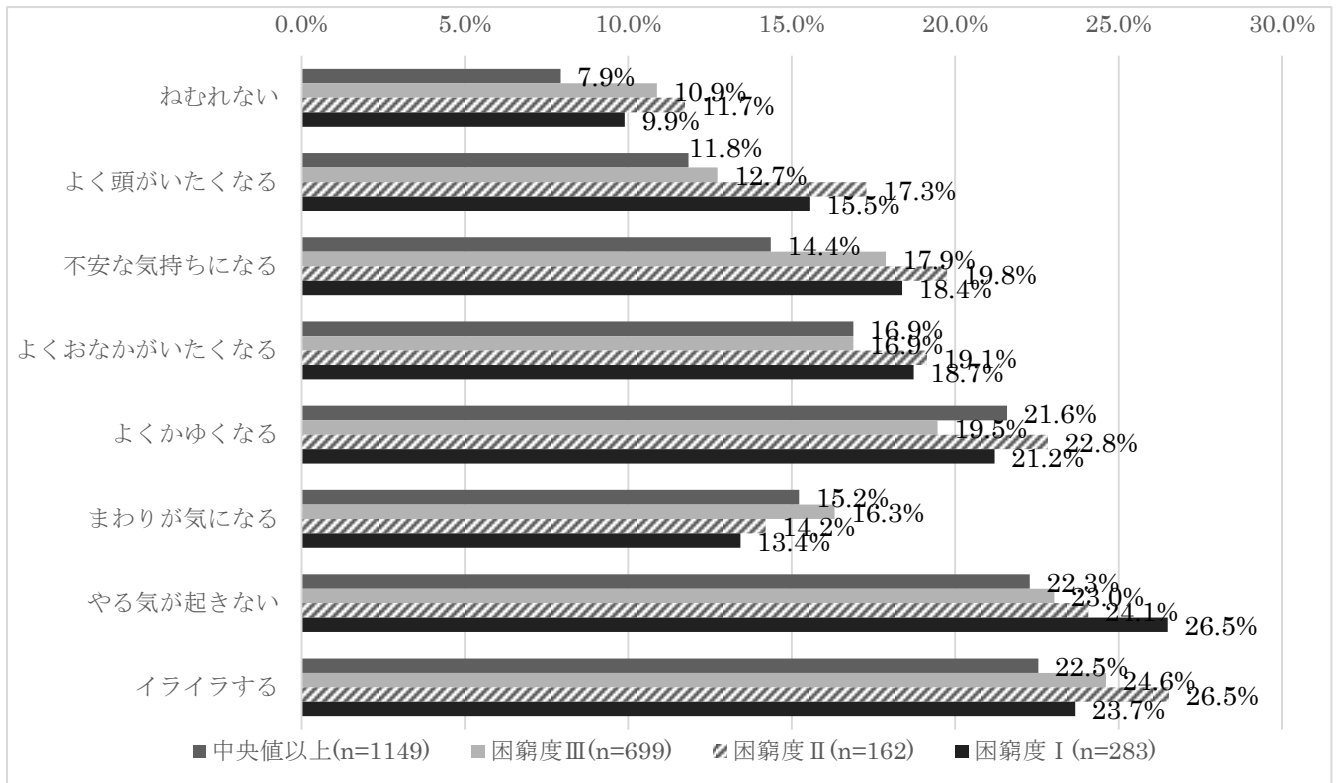


図 27 心身で気になること (子ども票問 21)

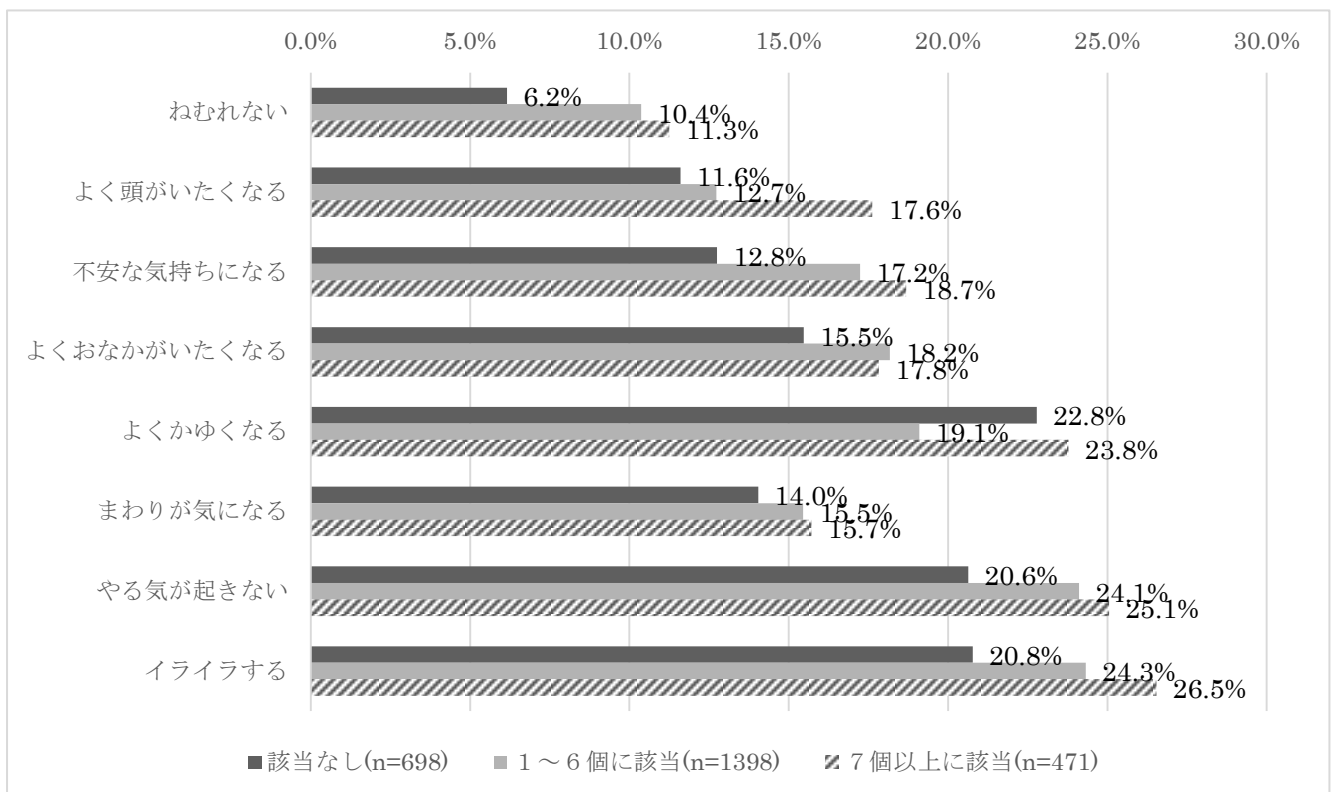


図 28 心身で気になること (子ども票問 21) と経済的な理由でできなかったこと (問 7) 該当数

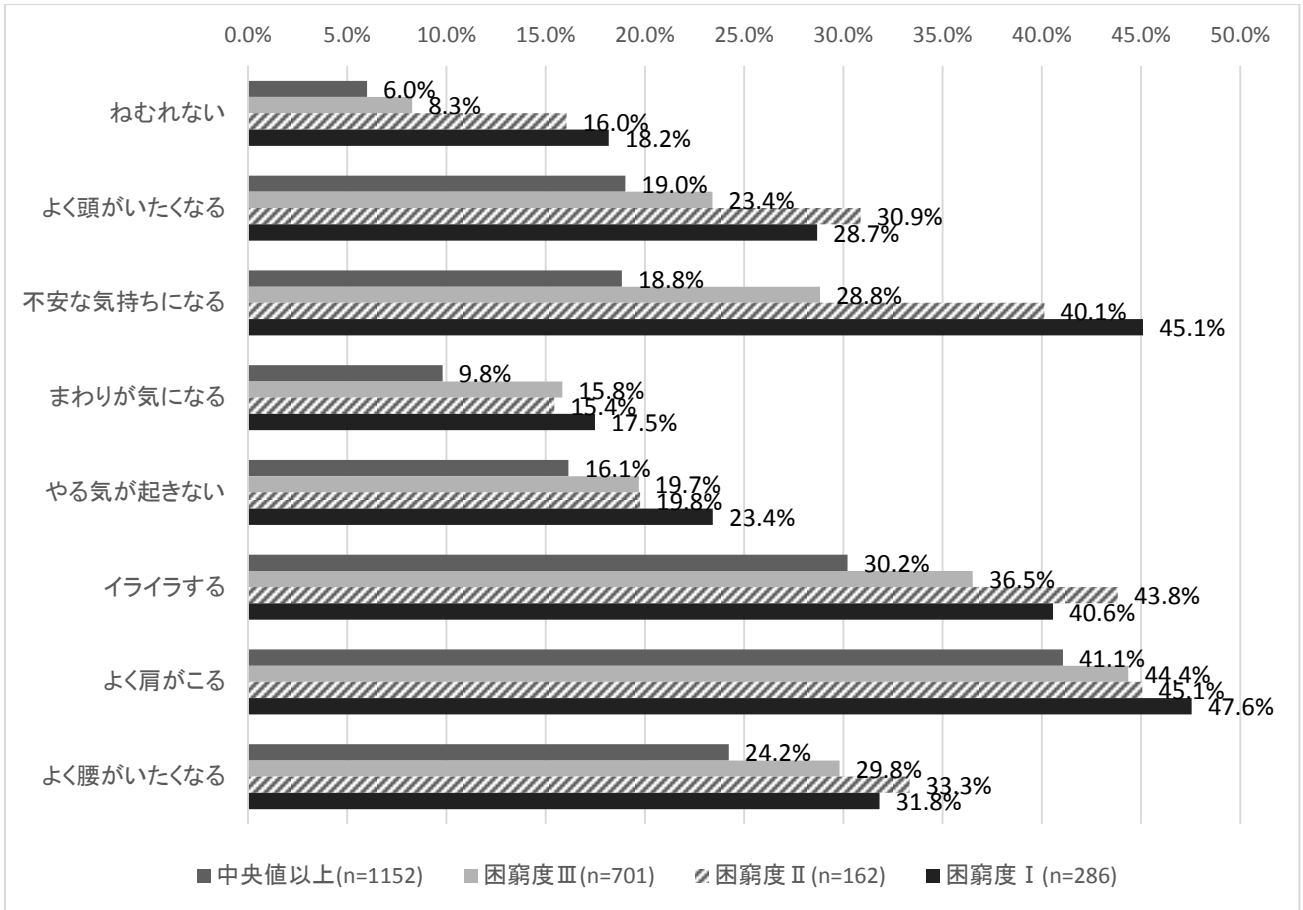


図 29 心身で気になること (保護者票問 23)

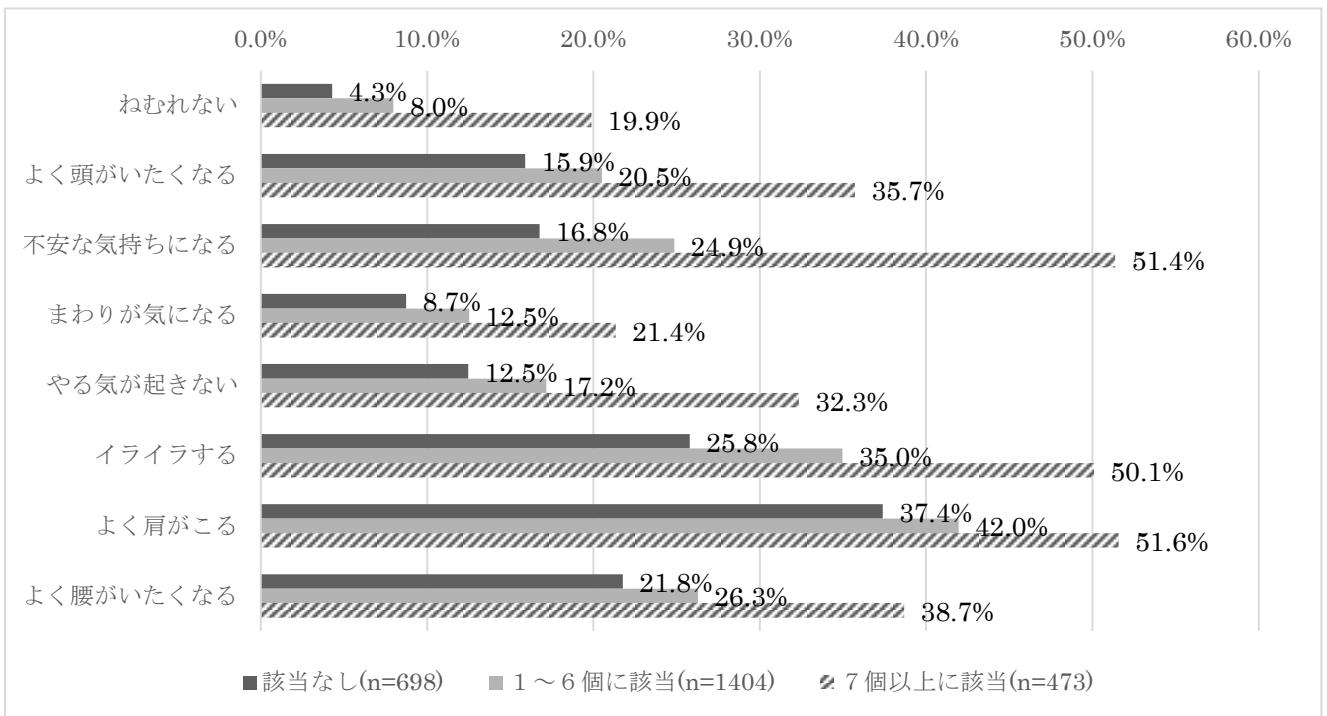


図 30 心身で気になること (保護者票問 23) と経済的な理由でできなかったこと (問 7) 該当数

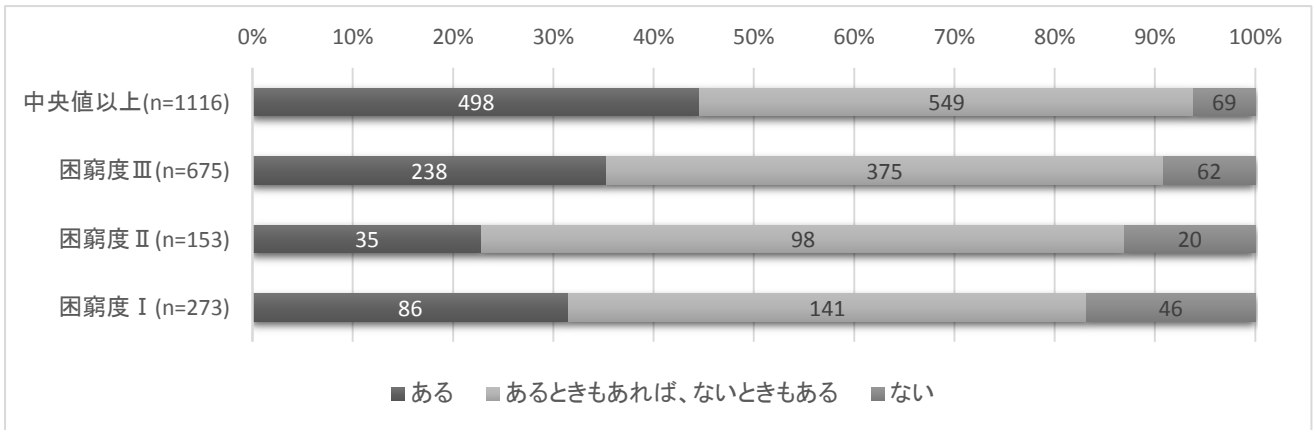


図 31 ストレス発散できるもの (保護者票問 22-3)

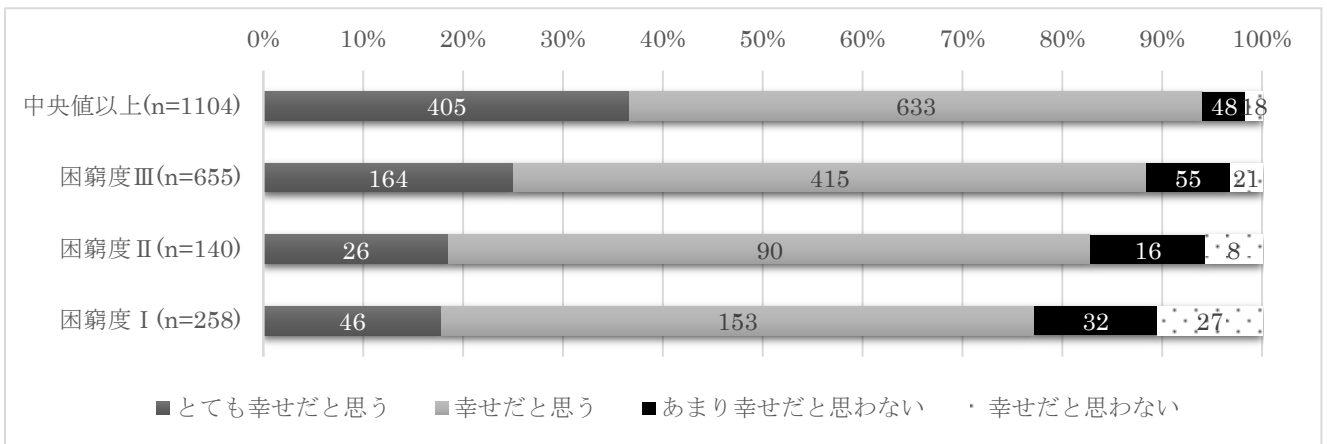


図 32 幸せだと思う (保護者票問 22-4)

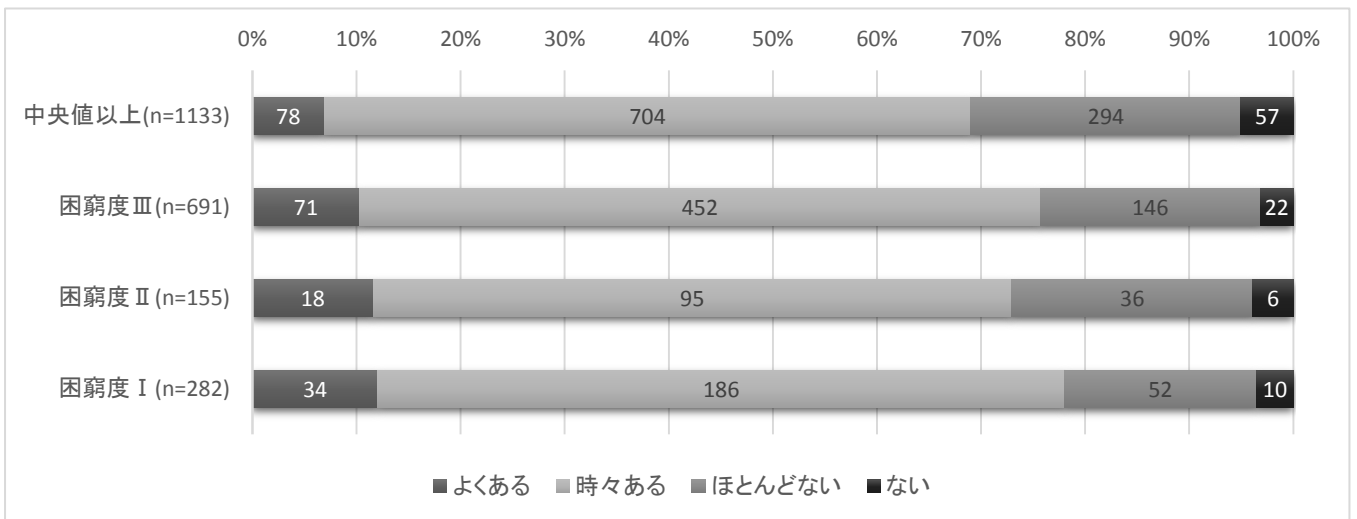


図 33 不安やイライラを子どもに (保護者票問 24)

4. 家庭生活、学習

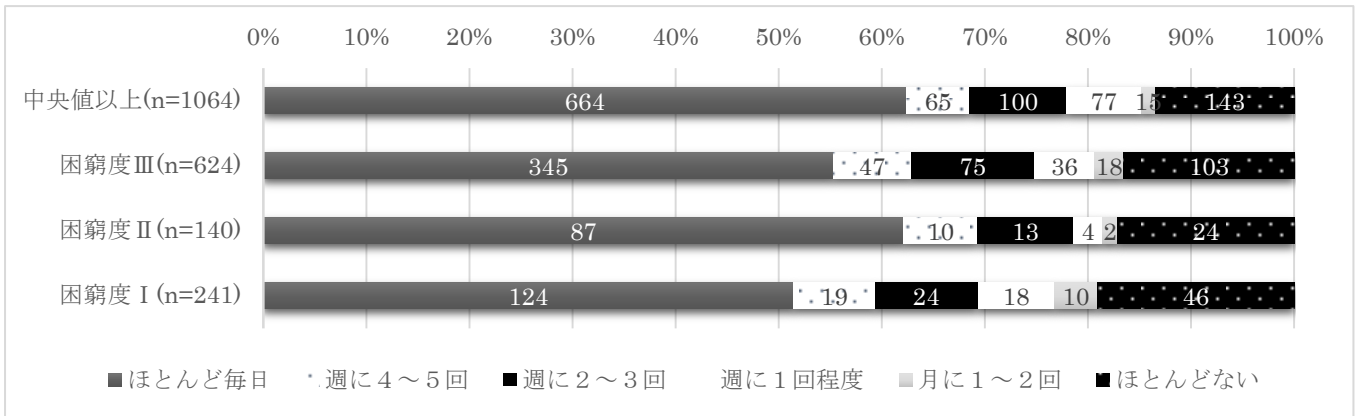


図 34 大人と一緒に朝食 (子ども票問 10)

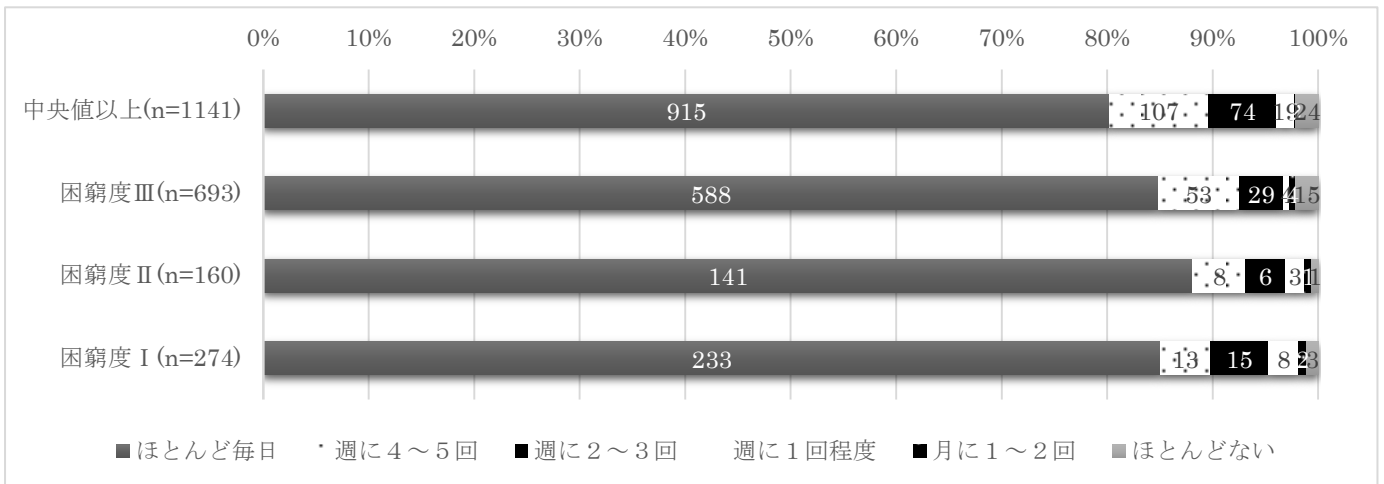


図 35 大人と一緒に夕食 (子ども票問 10)

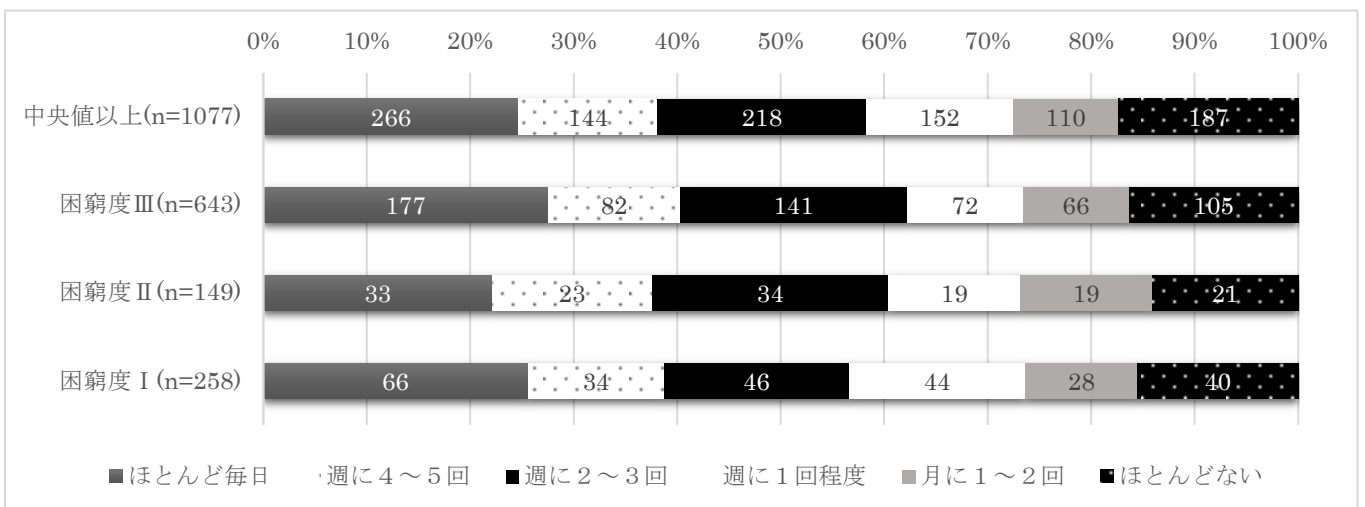


図 36 おうちの手伝い (子ども票問 10)

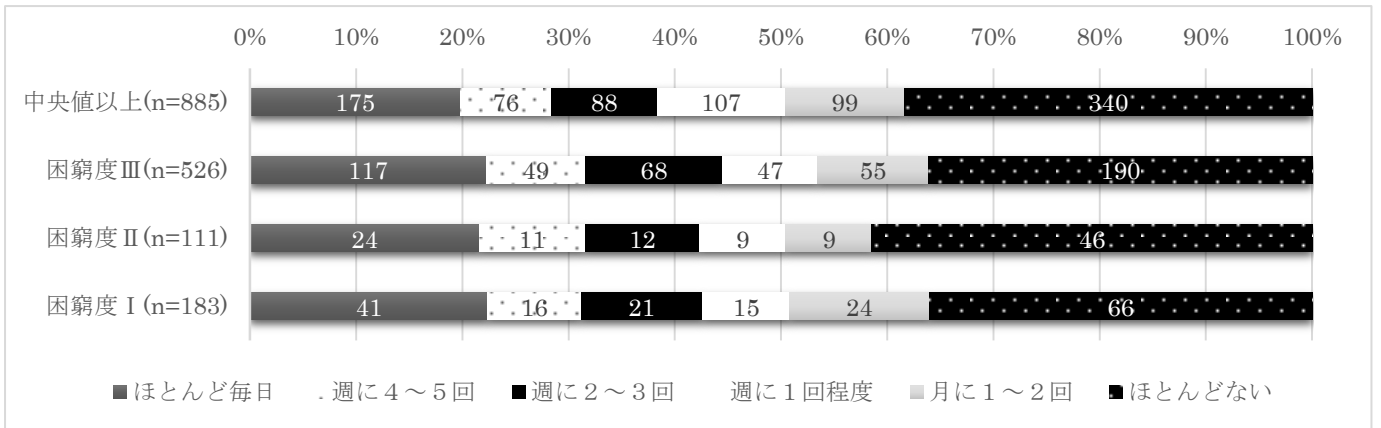


図 37 大人に宿題をみてもらう (子ども票問 10)

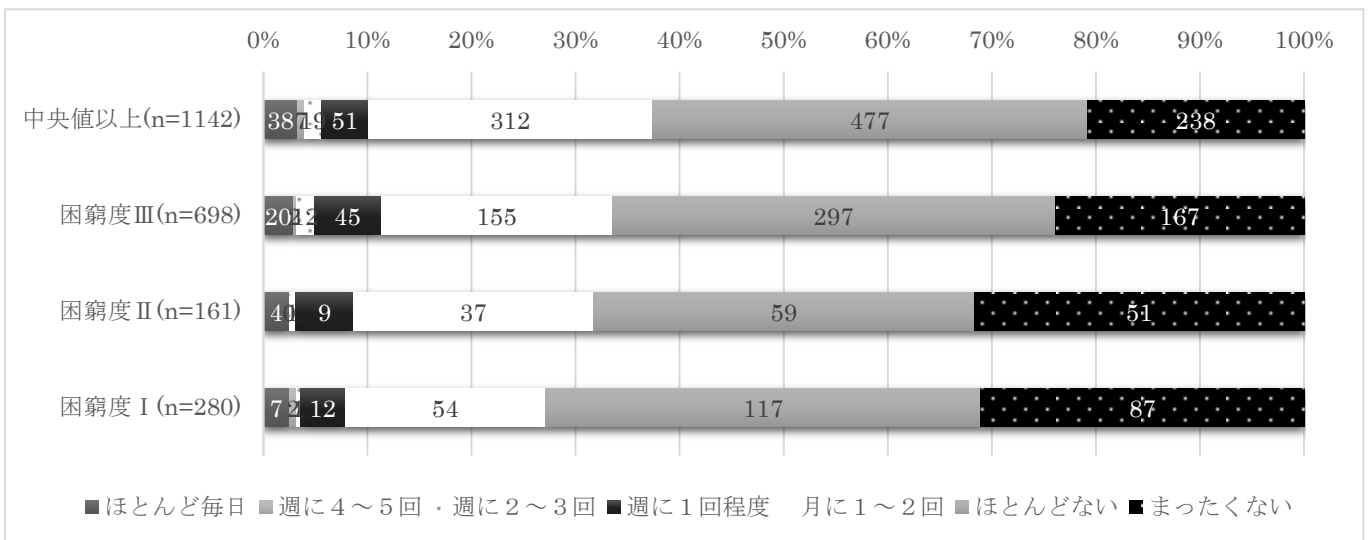


図 38 大人と文化活動 (子ども票問 10)

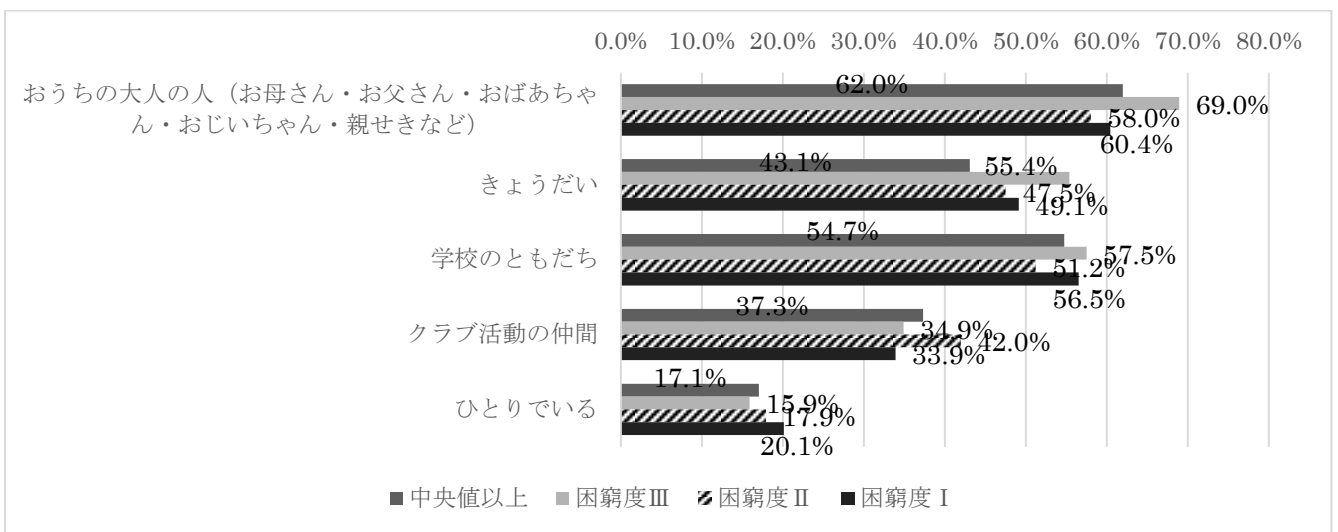


図 39 放課後誰と過ごすか (子ども票問 12)

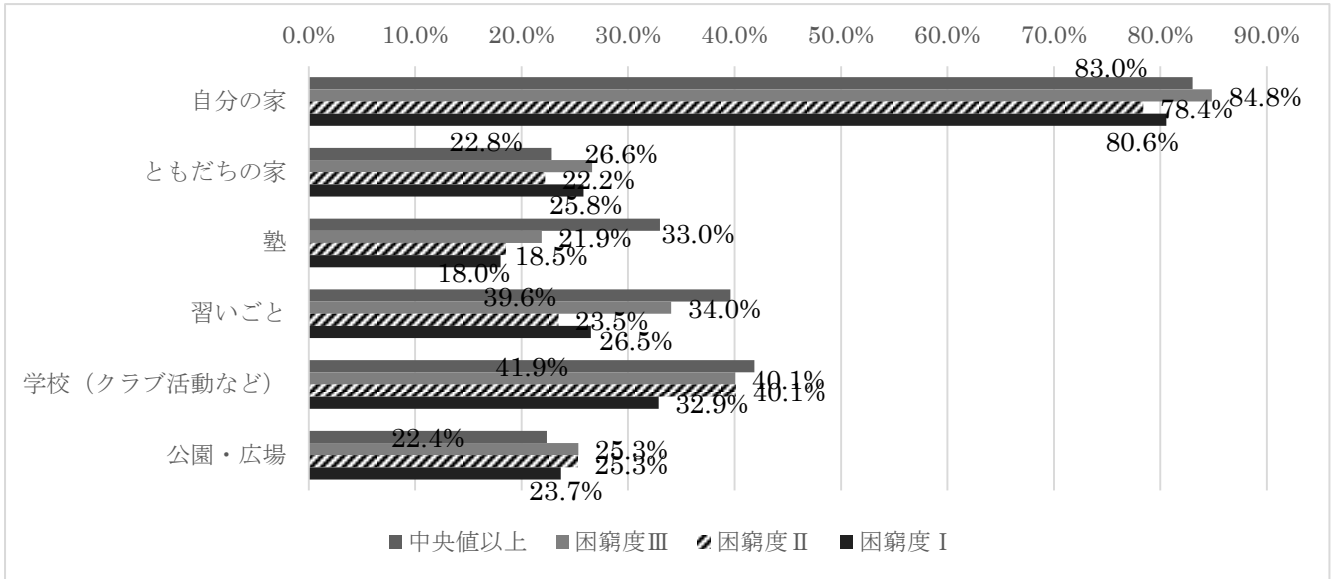


図 40 放課後どこで過ごすか (子ども票問 13)

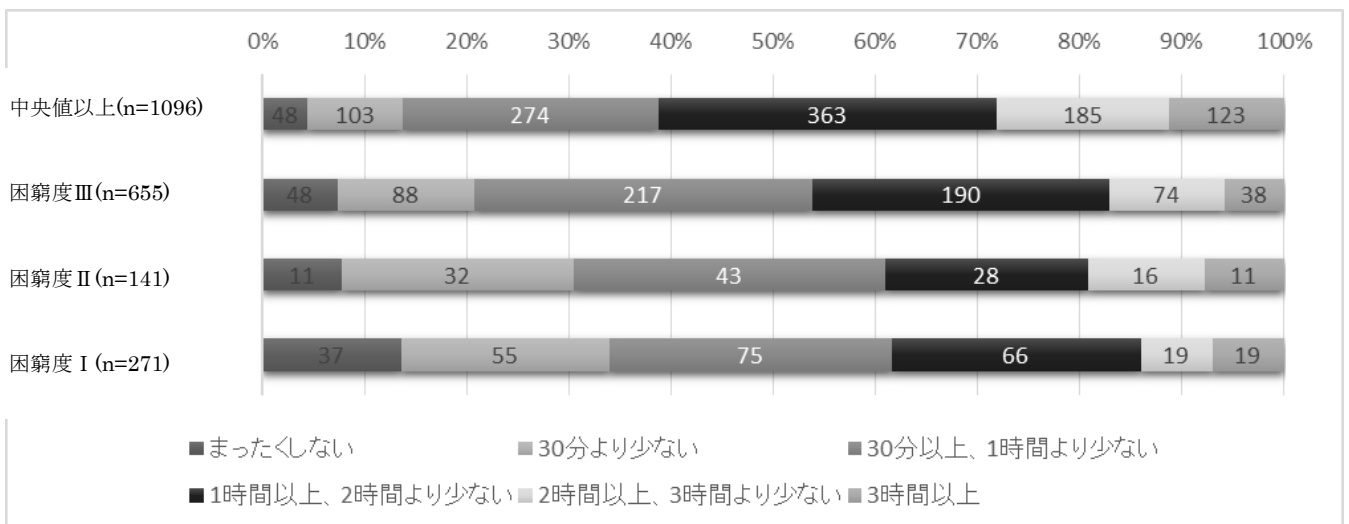


図 41 勉強時間 (子ども票問 14)

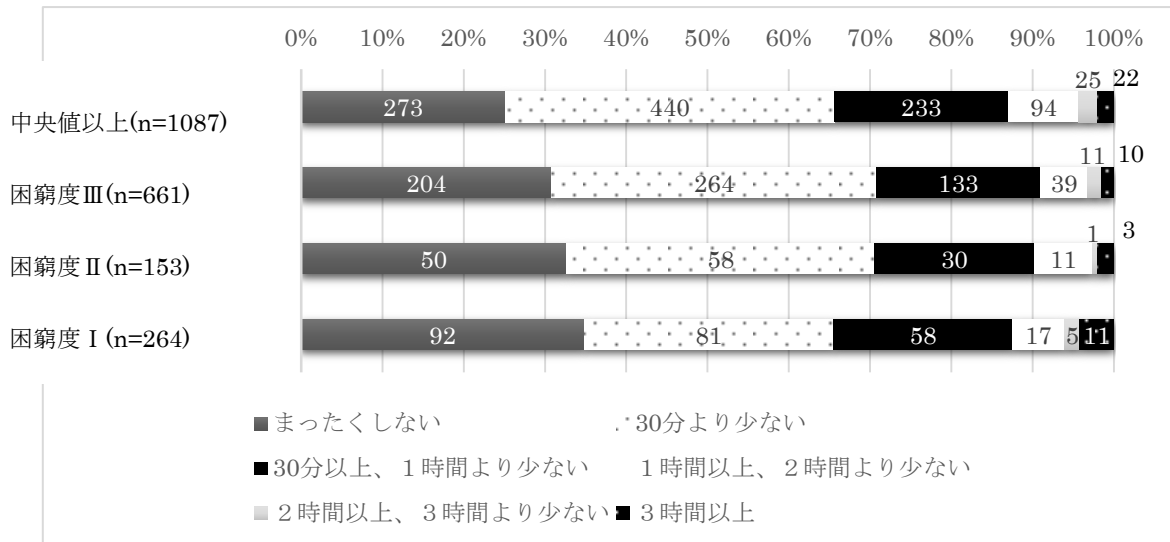


図 42 読書時間 (子ども票問 16)

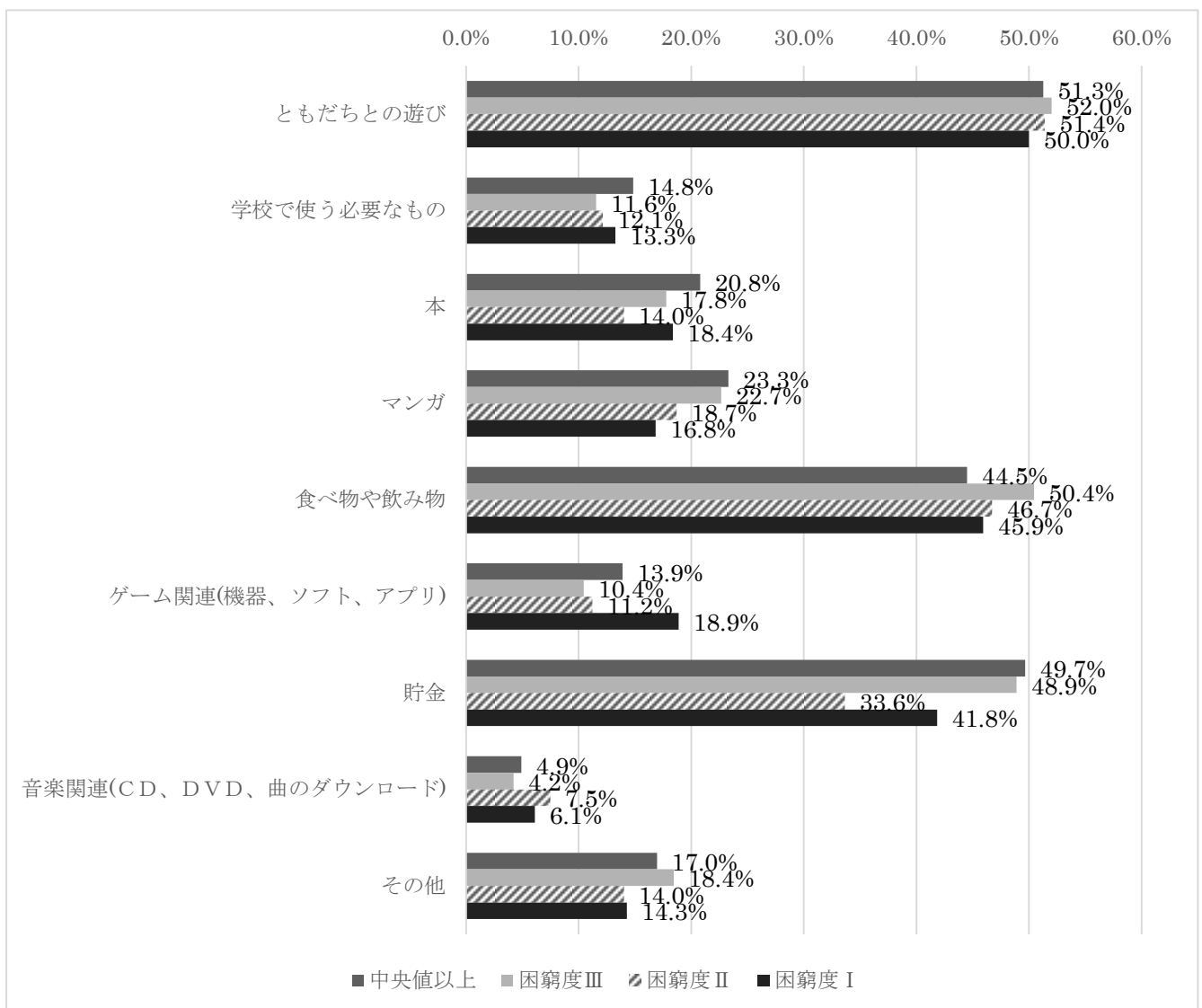


図 43 おこづかいの使い方 (子ども票問 17-3)

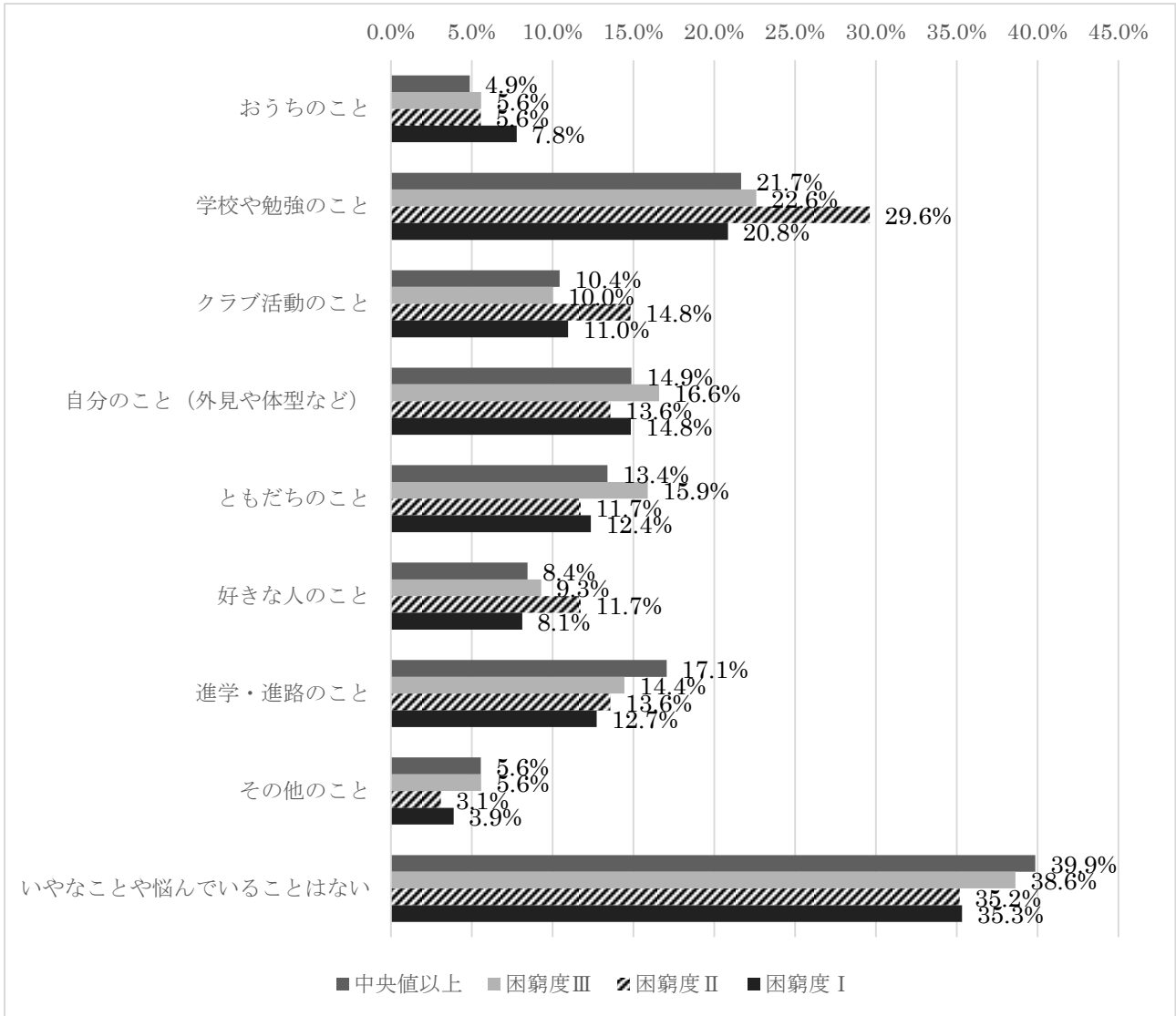


図 44 悩んでいること (子ども票問 19)

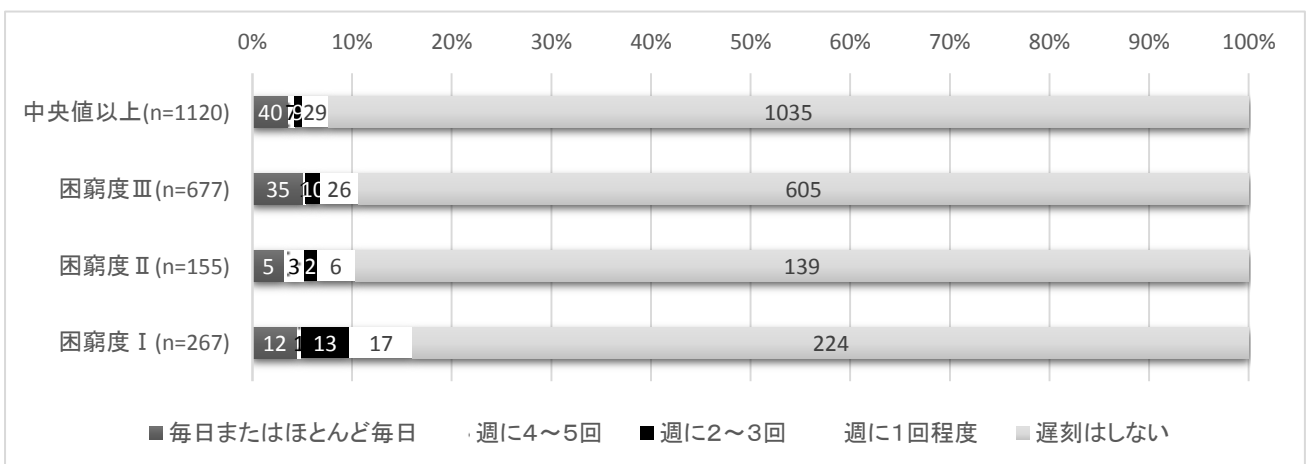


図 45 遅刻頻度 (子ども票問 9)

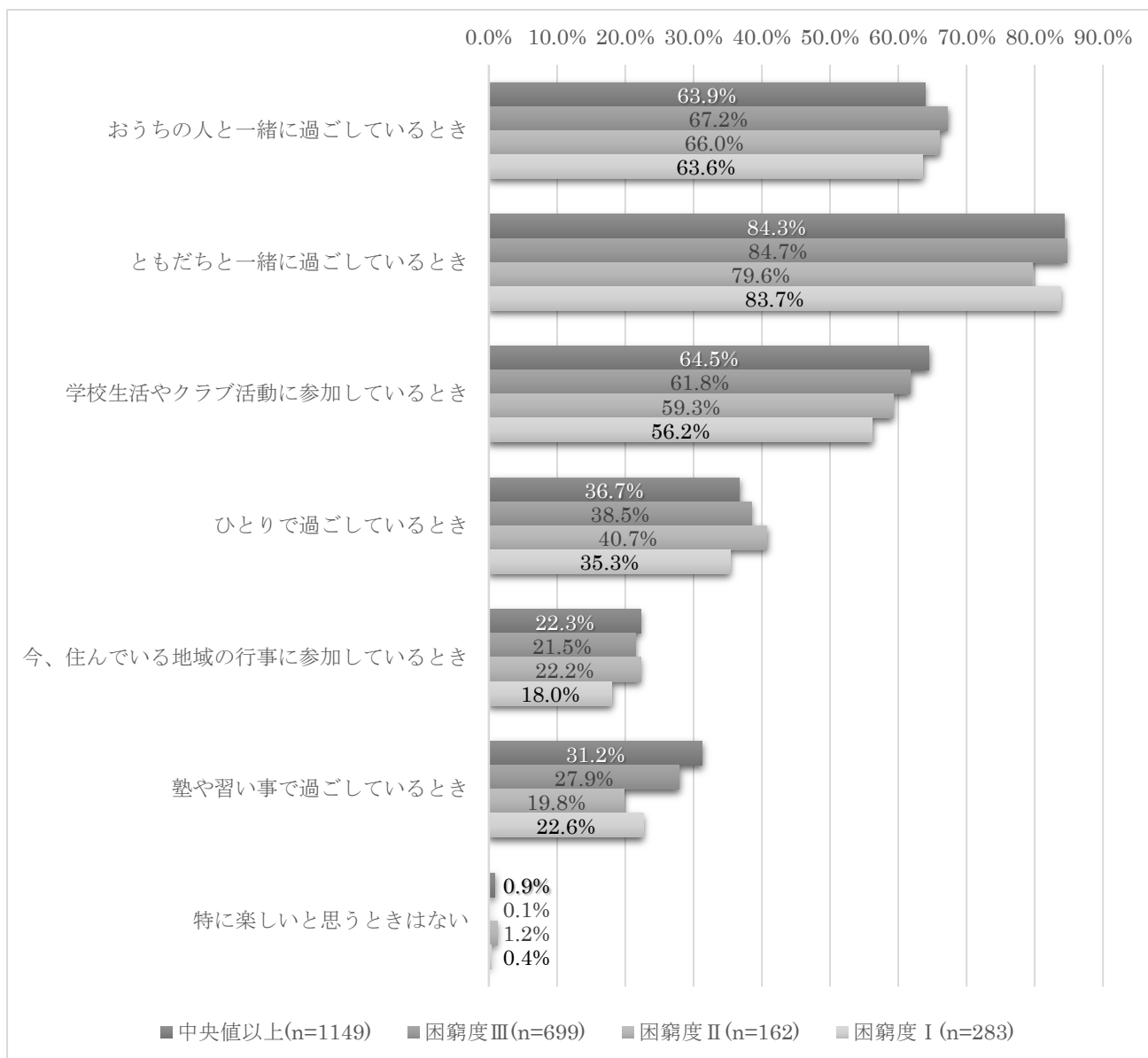


図 46 どのような時に楽しいと思うか (子ども票問 11)

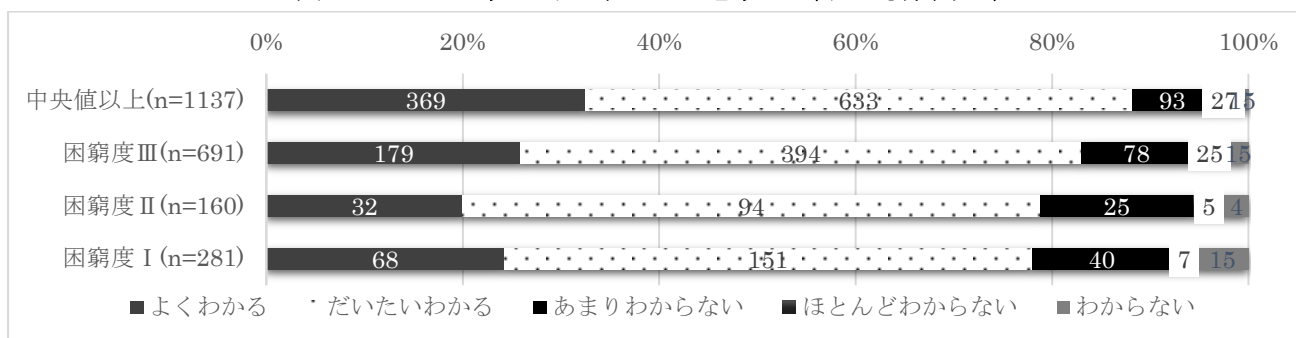


図 47 勉強理解度 (子ども票問 15)

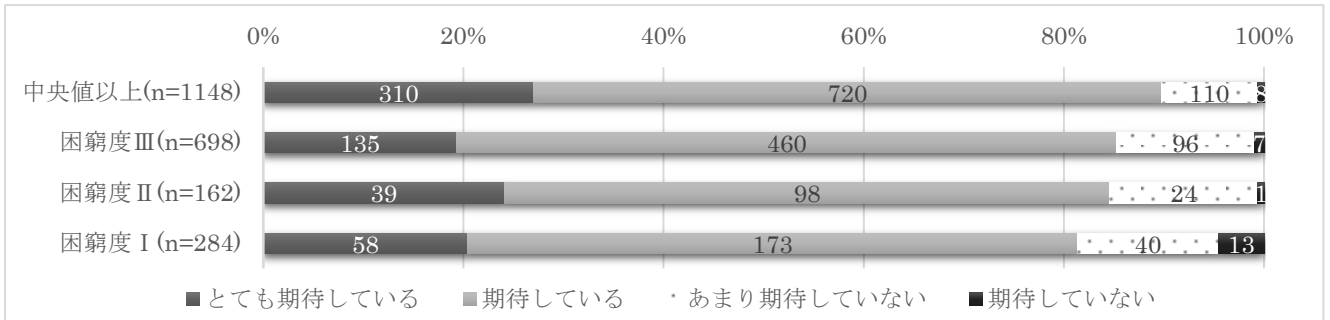


図 48 子どもの将来への期待 (保護者票問 14-4)

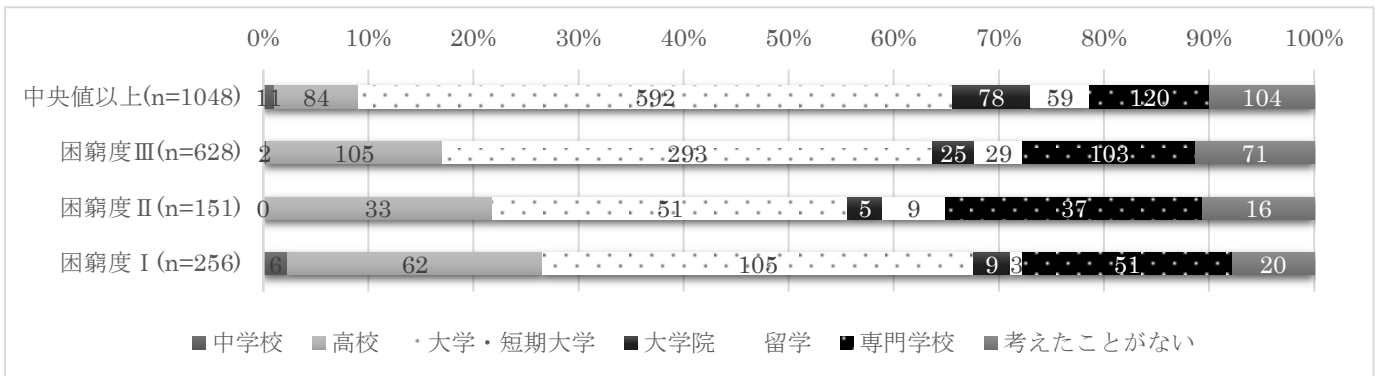


図 49 進学希望 (子ども票問 24)

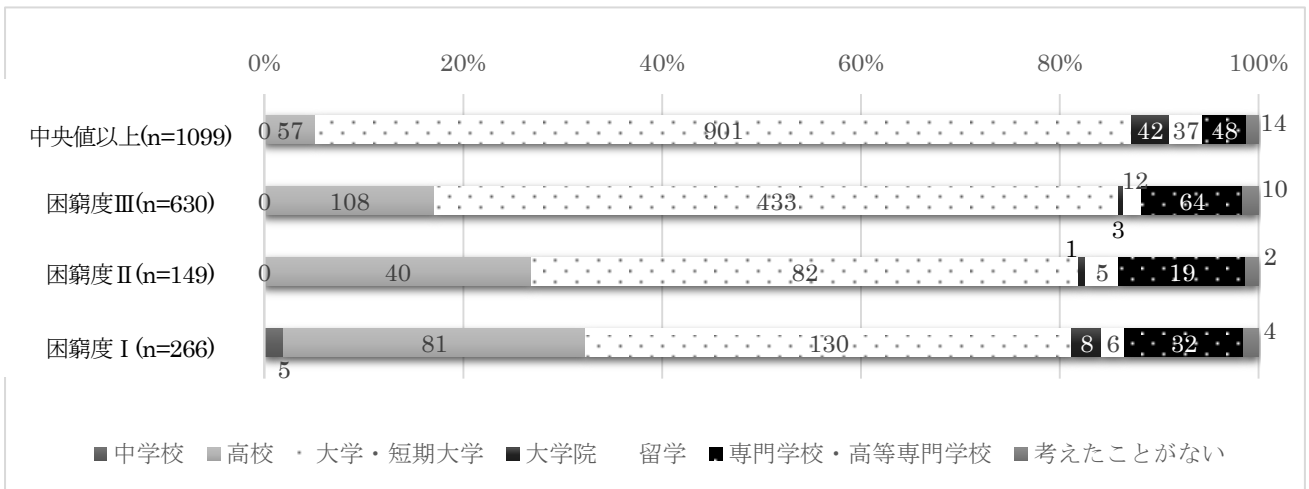


図 50 子どもの進学予測 (保護者票問 15)

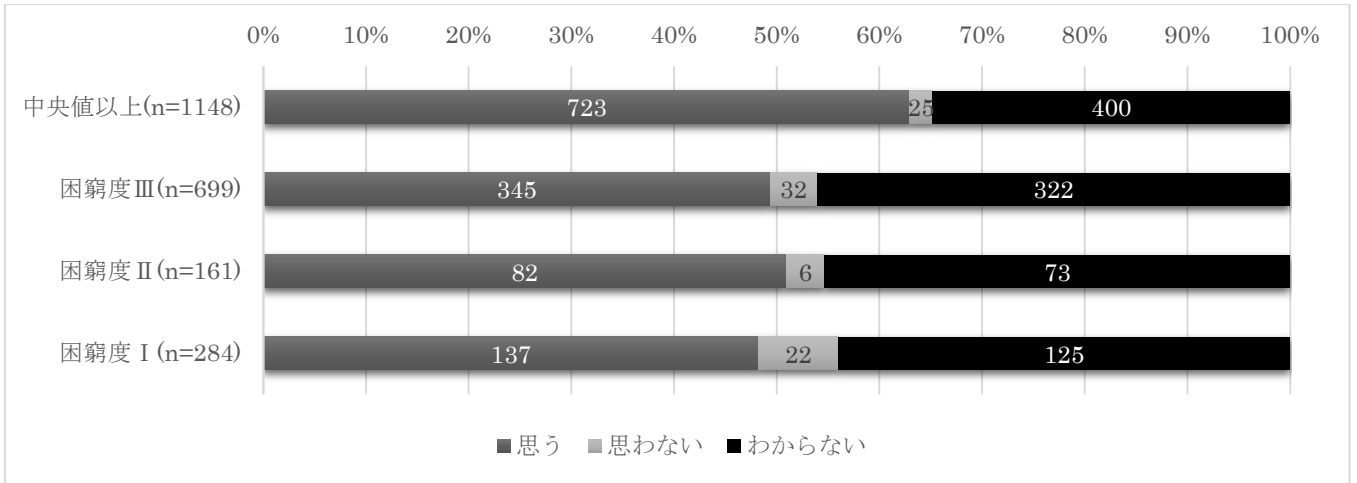


図 51 子どもの進学達成予測（保護者票問 16）

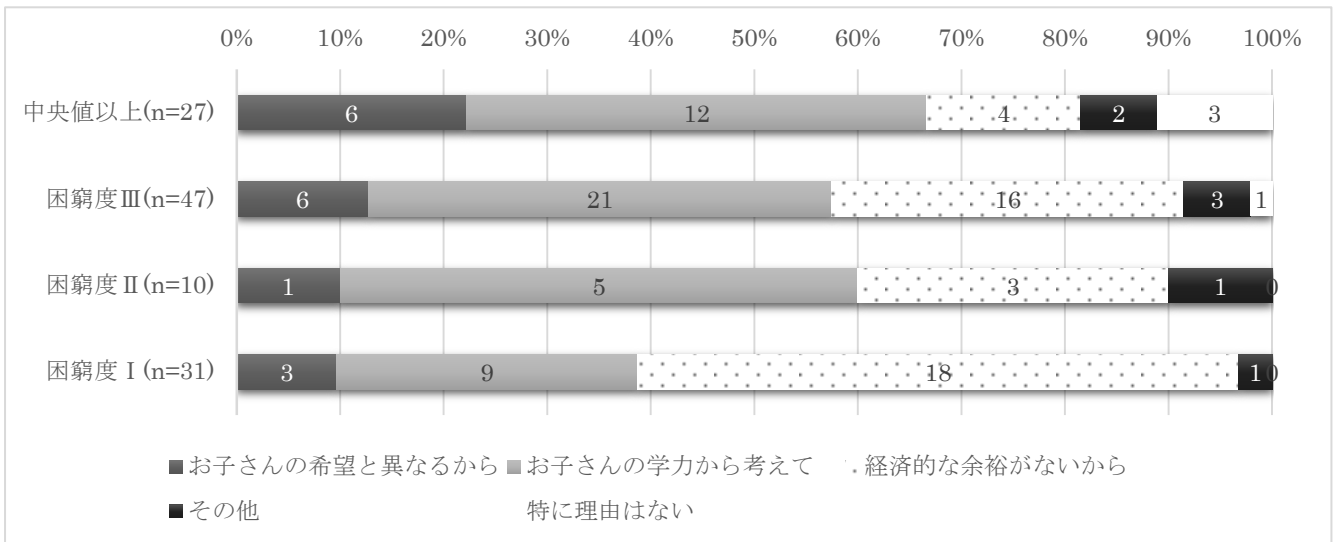


図 52 子どもの進学達成「思わない」理由（保護者票問 17）

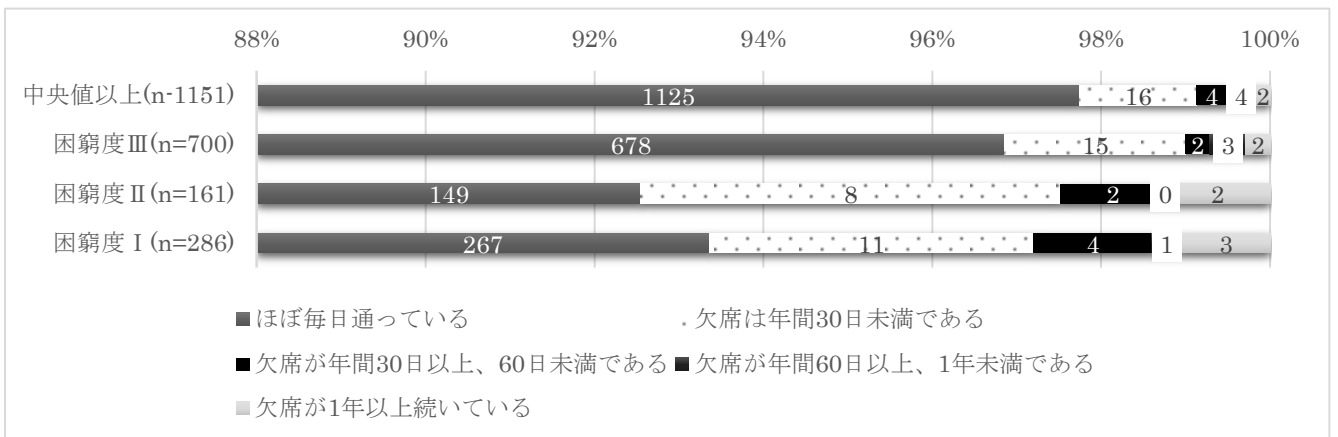


図 53 子どもの通学状況（保護者票問 18）

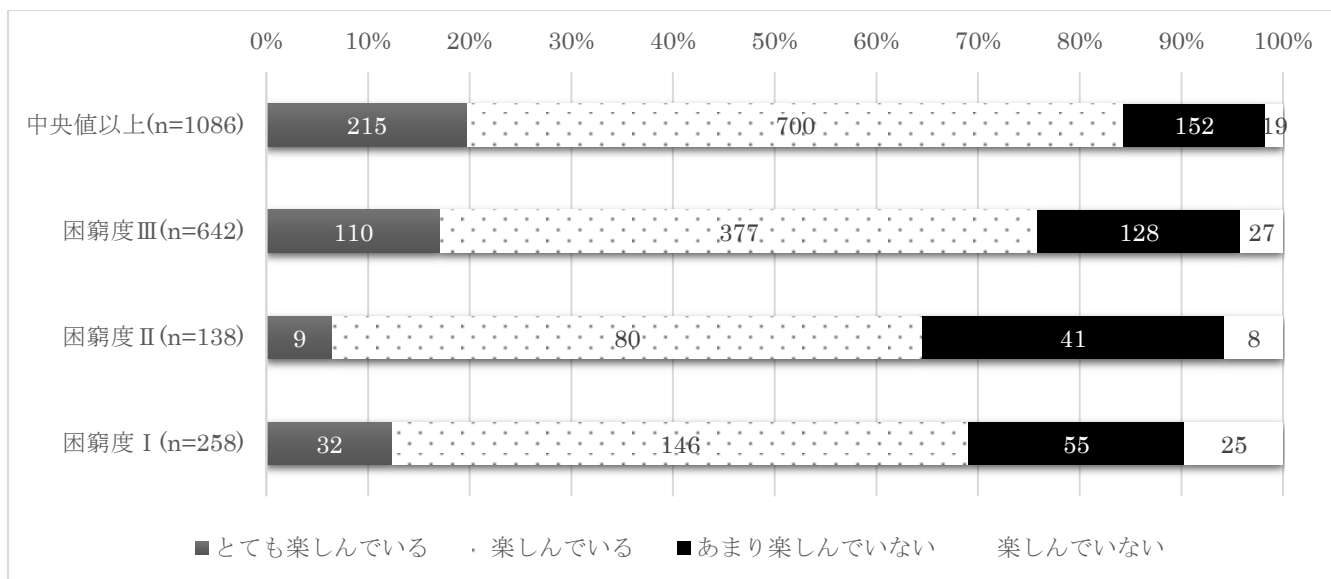


図 54 生活を楽しんでいる (保護者票問 22-1)

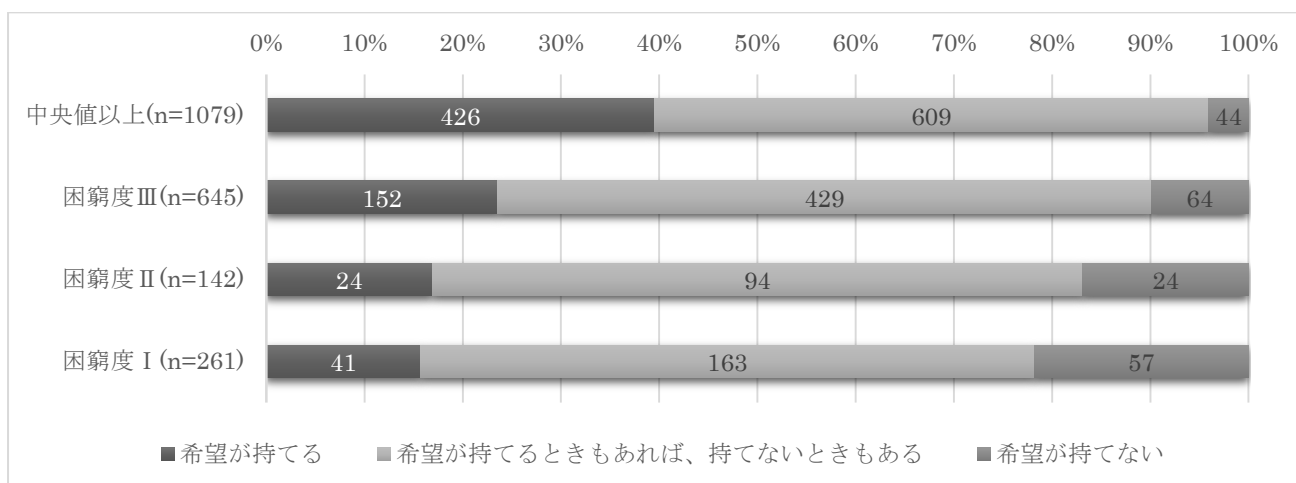


図 55 将来への希望 (保護者票問 22-2)

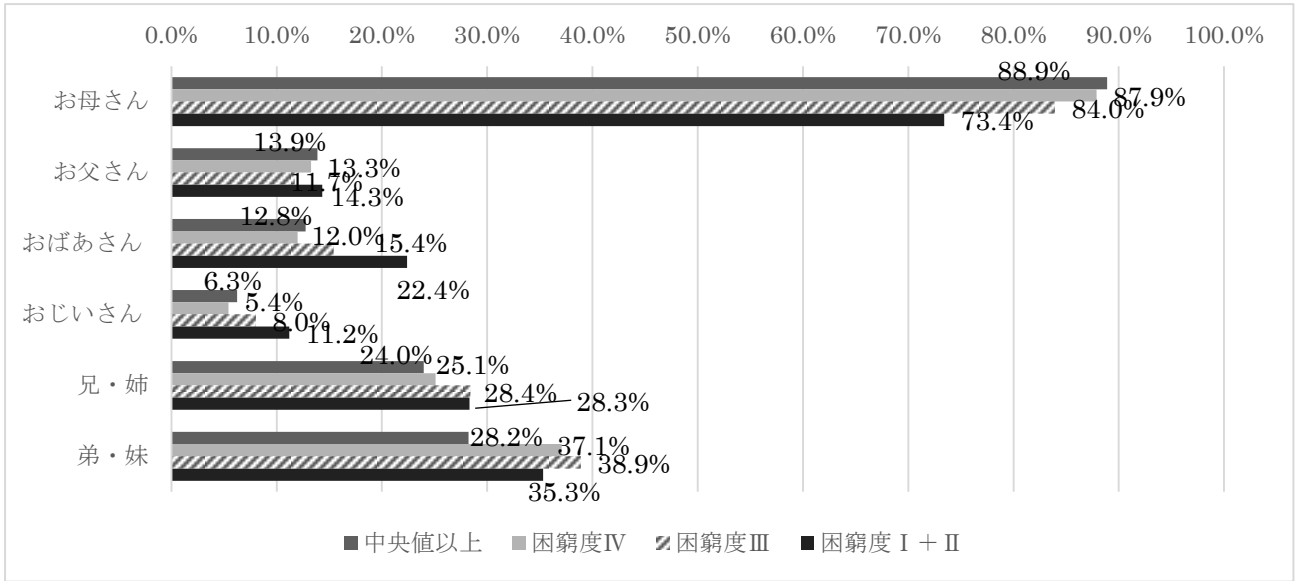


図 56 放課後子どもと過ごす人（保護者票問 11）

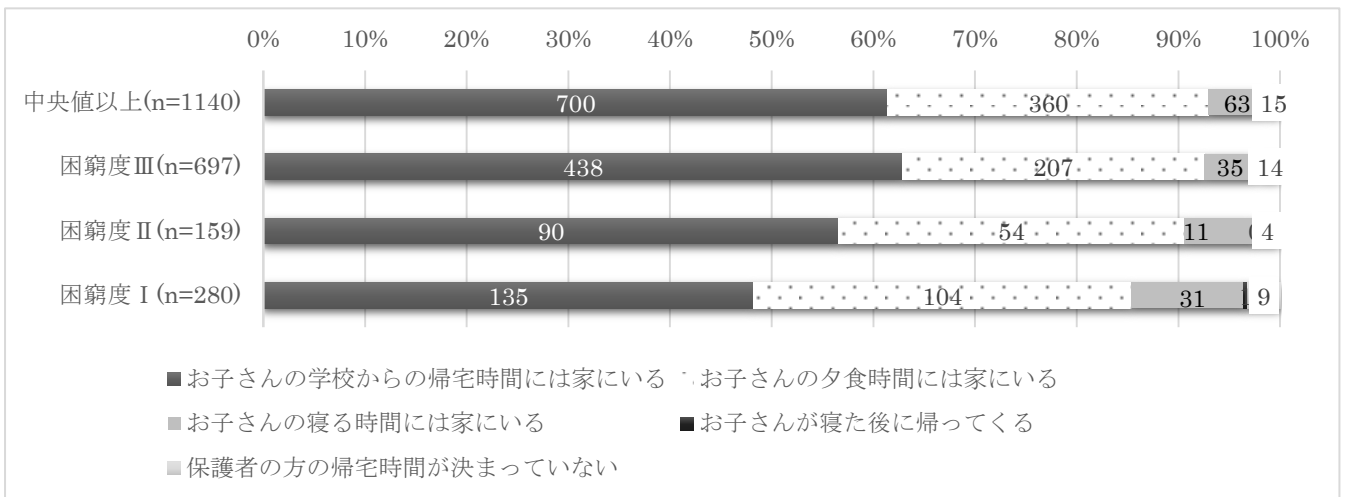


図 57 保護者の家にいる時間（保護者票問 10）

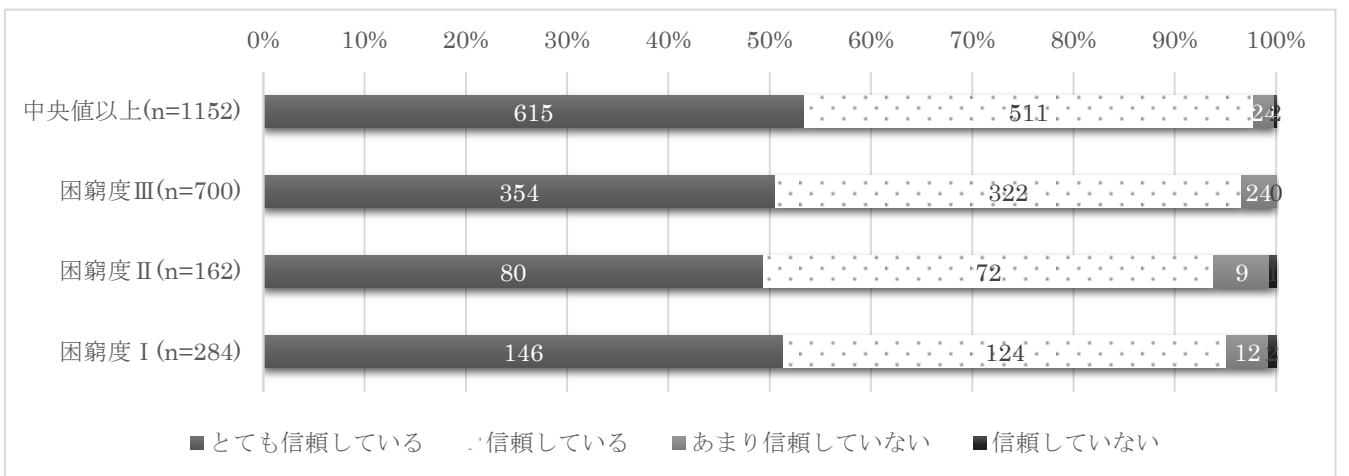


図 58 子どもへの信頼（以下、保護者票問 14）

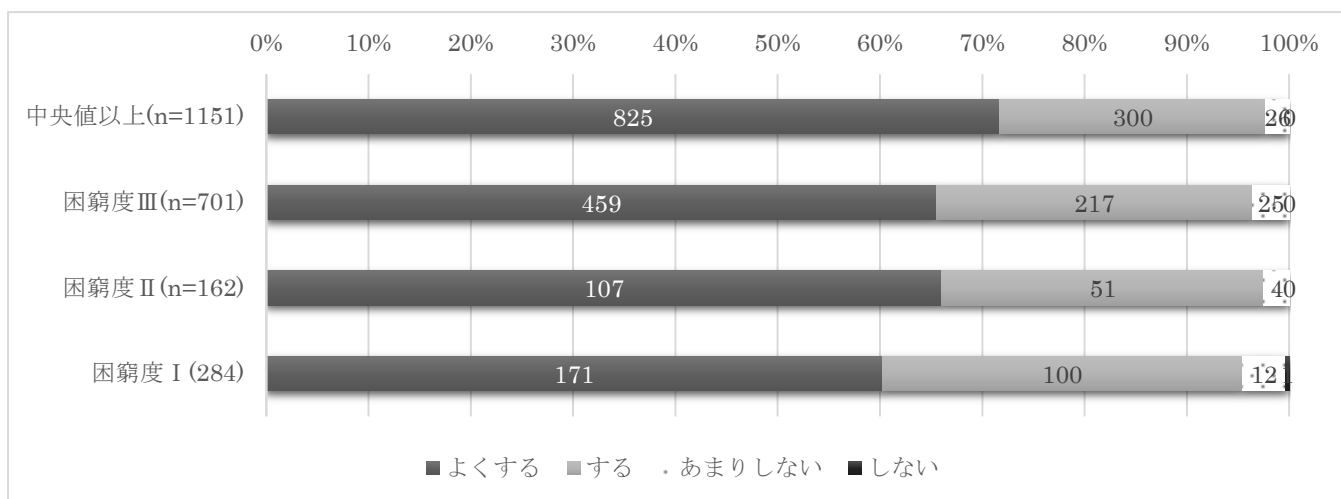


図 59 子どもとの会話

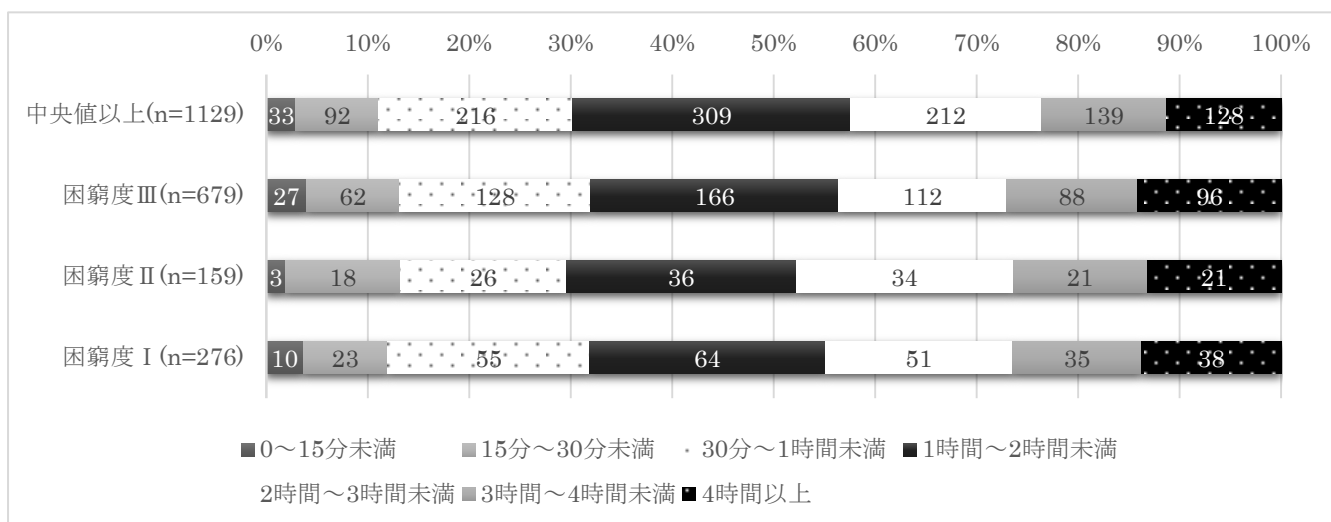


図 60 子どもとの関わり

5. 対人関係

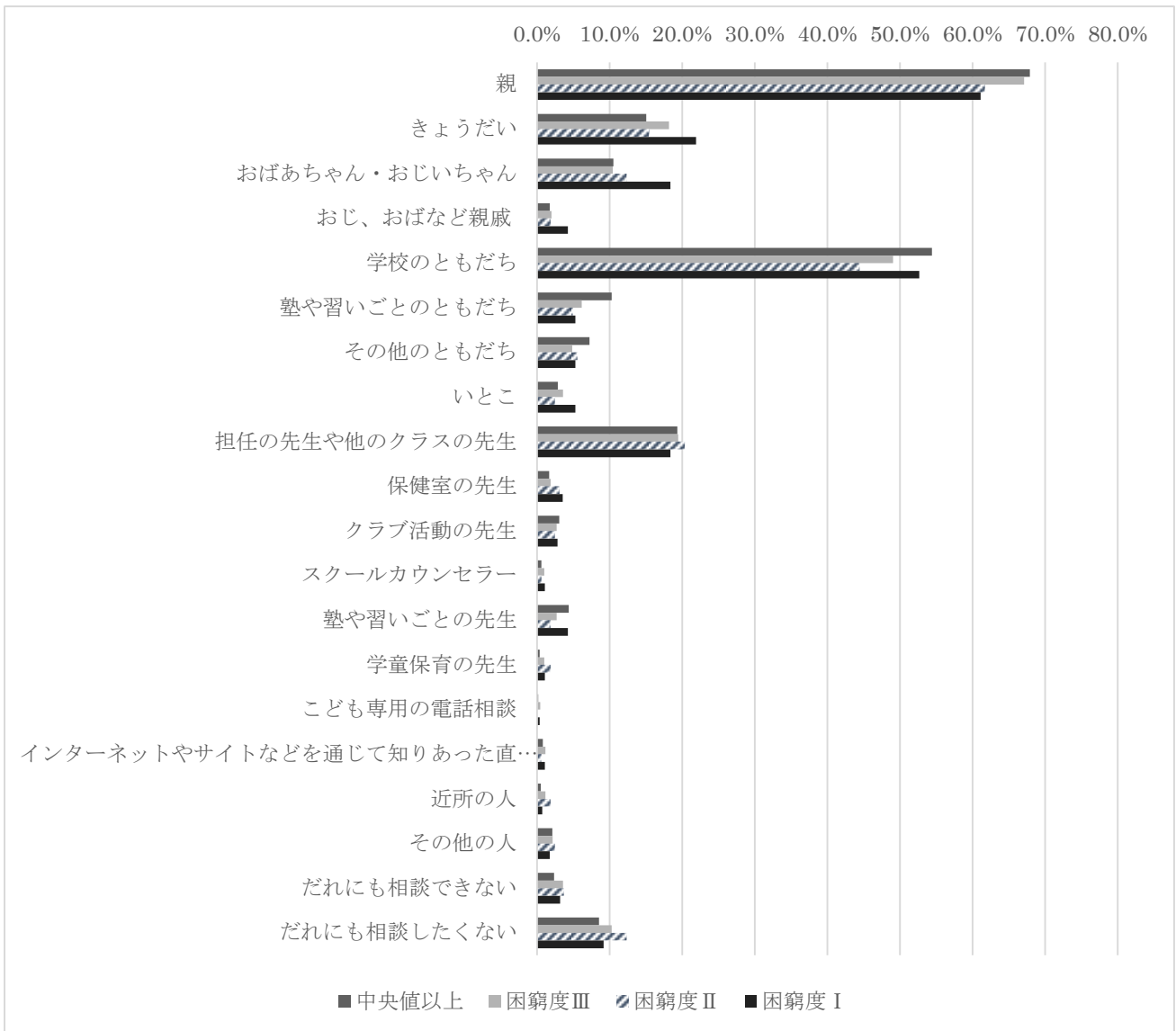


図 61 相談相手 (子ども票問 19)

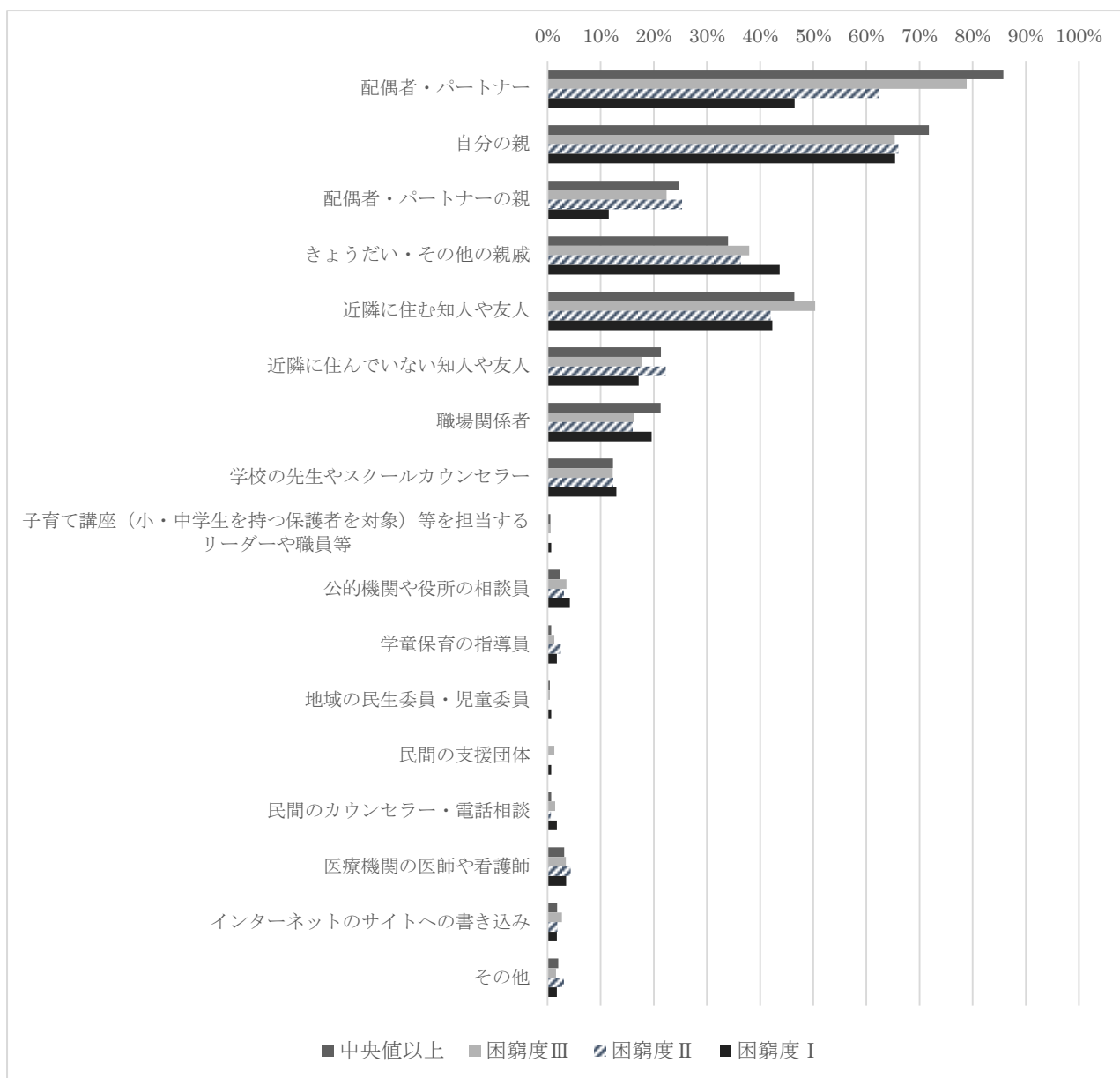


図 62 相談相手（保護者票問 21）

(参考)

■児童扶養手当の世帯構成ごと・困窮度別受給状況（P 1 2 関係）

（30市町村）

		受けている	受けたことがある	受けたことはない	合計
母子世帯	中央値以上	6	7	26	39
		15.4%	17.9%	66.7%	100.0%
	困窮度Ⅲ	12	7	21	40
		30.0%	17.5%	52.5%	100.0%
	困窮度Ⅱ	25	1	5	31
		80.6%	3.2%	16.1%	100.0%
困窮度Ⅰ	95	9	16	120	
	79.2%	7.5%	13.3%	100.0%	
	計	138	24	68	230
父子世帯	中央値以上	3	1	14	18
		16.7%	5.6%	77.8%	100.0%
	困窮度Ⅲ	1	1	4	6
		16.7%	16.7%	66.7%	100.0%
	困窮度Ⅱ	2	0	0	2
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
困窮度Ⅰ	5	0	3	8	
	62.5%	0.0%	37.5%	100.0%	
	計	11	2	21	34

■養育費の世帯構成ごと・困窮度別受給状況（P 1 3 関係）

○30市町村

（単位：人）

	父子世帯	母子世帯	合計（ひとり親世帯）
受けている	1	46	47
	1.8%	15.1%	13.0%
受けたことがある	1	22	23
	1.8%	7.2%	6.4%
受けたことはない	33	146	179
	60%	47.9%	49.7%
無回答	20	91	111
	36.4%	29.8%	30.8%
合計	55	305	360
	100%	100%	100%

■調査概要（府実施の30市町村分と43市町村との主な比較）

○府実施（府内30市町村）分

調査対象	小学5年生・その保護者（4000世帯） 中学2年生・その保護者（4000世帯）
調査方法	調査票を郵送配布・郵送回答 13市町を除く地域の住民基本台帳より無作為抽出 8000世帯に対して、調査票を郵送、回答を得た
実施時期	平成28年7月1日～7月19日
回収率・回収数	小学5年生 34.2%（回収数1,369／4,000人） 小学5年生の保護者 34.3%（回収数1,373／4,000人） 中学2年生 30.3%（回収数1,213／4,000人） 中学2年生の保護者 30.5%（回収数1,218／4,000人）

○43市町村（府実施分及び府内13市町実施分）

府内13市町

7・8月実施：大阪市、門真市、八尾市、豊中市

9月実施：吹田市、能勢町、枚方市、交野市、柏原市、富田林市、大阪狭山市、和泉市、泉佐野市

調査対象	小学5年生・中学2年生、それぞれの保護者 小5・中2 80,114人、保護者 80,114人
調査方法・回収率等	① 学校の協力の下、全数調査（9自治体） 小5・中2 回収率 77.3%（38,275／49,529人） 保護者 回収率 76.2%（37,762／49,529人）
	② 郵送配布・郵送回答（2自治体） 小5・中2 回収率 33.6%（5,145／15,330人） 保護者 回収率 33.9%（5,196／15,330人）
	③ 学校配布、郵送回答（3自治体） 小5・中2 回収率 43.8%（6,680／15,255人） 保護者 回収率 43.9%（6,700／15,255人）
	【合計】 小5・中2 回収率 62.5%（50,100／80,114） 保護者 回収率 62.0%（49,658／80,114）

※2016年11月24日時点での算出、白票を除く